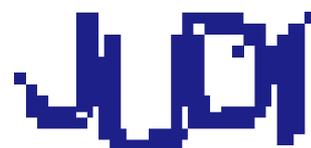


ANUAL REPORT **2012**

第22期 [2013年5月31日終了年度]



CONTENTS

■	都市環境デザイン会議の2012年	
	都市環境デザイン会議の2012年度の主な活動	02
	代表幹事会	04
■	各ブロックの活動	
	北海道ブロック	06
	北陸ブロック	08
	関東ブロック	10
	中部ブロック	12
	関西ブロック	14
	中国ブロック	16
	四国ブロック	17
	九州ブロック	18
	琉球ブロック	20
■	プロジェクト活動	
	有福温泉ー伝統的温泉街の復興に向けたビジョンづくりと活動支援	22
	博多まちづくりシンポジウム	24
	都市ブランドを創造する屋外広告物の研究	26
	地震や津波による被害からの海辺集落の復興に関する調査	28
	東日本大震災における自主復興の実態に関する調査	30
	中部ブロックメンバーによる東日本大震災への復興計画提案づくり	32
	歩行者空間デザインの可能性を探る	34
	メンバーズポートフォリオとブロックパンフレット	36
■	委員会の活動	
	研修委員会	38
	広報委員会	39
	事業委員会	40
	国際委員会	42
■	その他の活動	
	あり方検討会	44

都市環境デザイン会議の2012年度の主な活動

年月日	ブロック	活動内容
2012年6月2日(出)	中国	第22期『中国ブロック総会』
2012年6月9日(出)	琉球	建築まち歩き『那覇まちぐわー界限』
2012年6月14日(木)	関東	第1回関東ブロック幹事会・運営委員会
2012年6月17日(日)	あり方	第4回あり方検討会
2012年6月25日(月)	中部	中部ブロック運営会議
2012年7月12日(木)	関東	第12回押しかけリレーセミナー『吉村純一 [プレスメディア]』
2012年7月14日(出)	全体	第22期定期総会、シンポジウム『すこやかな都市』、U50プロジェクト報告会
2012年7月15日(日)	全体	今後のあり方ワークショップ、全国ブロック幹事会
2012年7月16日(祝)	関東	総会関連まち歩きツアー『スカイツリー周辺のまちづくりを考える～墨田区京島・向島界隈の今昔』
2012年7月23日(月)	関東	第2回関東ブロック幹事会・運営委員会
	中部	中部ブロック運営会議
	琉球	琉球ブロック打ち合わせ会議
2012年7月28日(出)	関西	都市環境デザインセミナー『北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想～空き家、空き工場を創造活動の場に～』
2012年8月20日(日)	関東	第3回関東ブロック幹事会・運営委員会
2012年8月22日(水)	琉球	琉球ブロック打ち合わせ会議
2012年8月31日(金)	関西	都市環境デザインセミナー『都市環境デザインの再生～人間中心の都市・まちづくりへ転換できるか～』
	九州	九州ブロック定例会
2012年9月1日(出)	北海道	岩見沢まち歩き
2012年9月8日(出)	関東	第13回押しかけリレーセミナー『鳥越けい子 [都市楽師プロジェクトイベント「名橋たちの音を聞く」]』
2012年9月10日(月)	琉球	造園専門家・山城岩夫氏に聞く
2012年9月18日(火) 2012年9月23日(日)	国際	JUDI海外ツアー『ラサ(チベット)』
2012年9月19日(水)	琉球	関西ブロックの協力による景観まち歩き『京都姉小路界隈、三条界隈』
2012年9月21日(金)	琉球	九州ブロックの協力による景観まち歩き『福岡博多界隈』
2012年9月25日(火)	関東	第4回関東ブロック幹事会・運営委員会
2012年9月27日(木)	九州	九州ブロック定例会
2012年9月28日(金)	関西	都市環境デザインセミナー『揃えないこと・揃えること～美しい南仏小集落から～』
2012年9月29日(出)	事業	『2012都市環境デザインモニターメッセ』
2012年10月4日(木)	関東	第16回ひとことサロン『都市デザイン視点で見た仮設市街地』

年月日	ブロック	活動内容
2012年10月10日(水)	九州	まちづくりセミナー『社会のシフトの仕方～人間中心のまちへ』
2012年10月12日(金)	関西	都市環境デザインセミナー『ソウル、釜山の都市の魅力づくりの最新事情』
2012年10月13日(土)	北陸	都市環境デザイン会議 in 金沢ミニフォーラム『歴史的市街地におけるまちづくりを考える』 見学会『長町地区界隈』
	中部	第11回中部ブロックデザインセミナー『名古屋』
2012年10月26日(金)	中国	JUDIプロジェクト「有福温泉」の進め方について協議
2012年10月29日(月)	関東	第5回関東ブロック幹事会・運営委員会
2012年11月3日(土) 2012年11月4日(日)	北海道 研修	セミナー『歩行者空間デザインの可能性を探る～旭川買物公園を中心に』
2012年11月14日(水)	九州	博多まちづくりシンポジウム『プレワークショップ』
2012年11月19日(月)	九州 関東	博多まちづくりシンポジウム 第6回関東ブロック幹事会・運営委員会
2012年11月23日(祝)	中部	第12回中部ブロックデザインセミナー『桑名』
2012年11月24日(出)	中国	JUDIプロジェクト現地調査『江津市都野津の赤瓦の町並み見学と有福温泉町歩き』
		JUDIプロジェクト「有福温泉」全体ディスカッション
2012年11月25日(日)	中国	JUDIプロジェクト現地調査『江津市都野津の赤瓦の町並み見学と有福温泉町歩き』
2012年11月26日(月)	国際	JUDI国際セミナー『ママチャリが地球を救う』
2012年11月29日(木)	関西	都市環境デザインセミナー『まちづくりの「まち医者」これからの専門家像を探る』
2012年12月11日(火)	関東	第7回関東ブロック幹事会・運営委員会
2012年12月12日(水)	琉球	琉球ブロック打ち合わせ会議
2012年12月13日(木)	琉球	関西ブロックメンバーによる景観レクチャー
2012年12月15日(土)	関東	2012年度まち歩き+忘年会『板橋宿を歩く』
2012年12月17日(月)	関西	都市環境デザインセミナー『大阪の埋め立ての進展とその環境～江戸・明治期を中心に』
2013年1月8日(火)	国際	JUDI国際セミナー『Corporate Power or Cultural Authenticity? Changing Urban Landscapes in the 21st Century』
2013年1月19日(出)	九州	玄界島視察
2013年1月22日(火)	関東	第9回関東ブロック幹事会・運営委員会
2013年1月26日(土)	関東	世田谷キャラバン『変わりゆく住宅都市 世田谷』
2013年2月3日(土)	中部	デザインセミナー美濃赤坂準備現地調査

年月日	ブロック	活動内容
2013年2月3日(土)	あり方	第5回あり方検討会
2013年2月12日(火)	関東	第9回関東ブロック幹事会・運営委員会
2013年2月16日(土)	中国	周防大島のホテル再生と島の観光開発についての勉強会
2013年2月17日(日)	中国	柳井市古川・金屋地区の町並み見学
2013年2月22日(金)	関西	都市環境デザインセミナー『風景を使いこなすデザイン』
2013年2月26日(火)	中部	関西ブロック会議参加
2013年3月1日(金)	関西	緊急セミナー「御堂筋の活性化に関する検討調査中間とりまとめ」について
2013年3月19日(火)	関東	第10回関東ブロック幹事会・運営委員会
2013年3月22日(金)	関西	都市環境デザインセミナー『市民レベルの広場活用・まちの魅力発信活動～姫路駅周辺整備・姫路城修理完了を前にして』
2013年4月4日(木)	九州	九州ブロック定例会
2013年4月10日(水)	琉球	琉球ブロック打ち合わせ会議
2013年4月13日(土)	関東	熱海キャラバン『温泉街の盛衰、NPO atamisutaの活躍 美しい海と丘陵 東京から46分の底力』
	四国	第22回四国環境デザイン紀行：都市景観セミナー『伝統産業と都市デザイン／醸造業を中心に吉野川沿いを巡る見学会』
2013年4月15日(月)	関東	第11回関東ブロック幹事会・運営委員会
	中部	中部ブロック運営会議
2013年4月20日(土)	あり方	第6回あり方検討会
2013年4月26日(金)	関西	都市環境デザインセミナー『若者のためのまちづくりの仕事入門「まち女子」の生き方・働き方に見る、まちづくりの仕事の魅力』
2013年5月7日(火)	関東	第12回関東ブロック幹事会・運営委員会
2013年5月8日(水)	関東	第1回JUDI関東セミナー『景観法制定から10年を目前にして』
	琉球	琉球ブロック打ち合わせ会議
2013年5月11日(土)	中部	第13回中部ブロックデザインセミナー『美濃赤坂』
	関西	都市環境デザインセミナー『新しい力が奈良を元気に！「夢キューブ」の試み』
2013年5月17日(金)	中部	錦二丁目まちづくり懇談会
	琉球	琉球ブロック打ち合わせ会議
2013年5月18日(土)	九州	第22期『九州ブロック総会』
		まちづくりセミナー『人口減少と都市空間の希薄化について』
2013年5月25日(土)	北陸	都市環境デザイン会議 in 富山フォーラム『魅力あるスローライフとまちづくり』
		見学会『とやまスローライフ・フィールド散策』
		第22期『北陸ブロック総会』

年月日	ブロック	活動内容
2013年5月25日(土)	中部	関西ブロック「都市環境デザインフォーラム」に参加
	関西	都市環境デザインフォーラム・関西『都市環境のコンバージョン残すもの、変えるもの、そのシカケとは』
		第22期『関西ブロック総会』
	あり方	第7回あり方検討会
2013年5月26日(日)	北陸	都市環境デザイン会議 in 富山 エクスカーション『新湊市内川界隈』
	四国	第23回四国環境デザイン紀行：都市景観セミナー『街路と海岸の緑化／高松市中心部の緑化事例の見学』
		第22期『四国ブロック総会』
2013年5月30日(木)	琉球	琉球ブロック打ち合わせ会議
2013年5月31日(金)	北海道	トータルデザインフォーラム『路面電車とまちづくり』

2012年度 役員名簿

■代表幹事

稲田 信之 (関東ブロック)
 尾辻 信宣 (九州ブロック)
 河崎 泰了 (中部ブロック)
 栗原 裕 (関東ブロック)
 齊藤 浩治 (東北ブロック)
 酒本 宏 (北海道ブロック)
 玉森 慶三 (北海道ブロック)
 中野 恒明 (関東ブロック)
 長町 志穂 (関西ブロック)
 松山 茂 (関西ブロック)

■監査役

高谷 時彦 (関東ブロック)
 工藤 勉 (関西ブロック)

■ブロック幹事

高森 篤志 (北海道ブロック)
 永松 栄 (東北ブロック)
 島津 勝弘 (北陸ブロック)
 飯田 とわ (関東ブロック)
 紺野 恭司 (関東ブロック)
 紺野 朋子 (関東ブロック)
 三輪 強 (関東ブロック)
 柳田 良造 (中部ブロック)
 若本 和仁 (関西ブロック)
 亀谷 清 (中国ブロック)
 大西 泰弘 (四国ブロック)
 新田 裕司 (九州ブロック)
 前原 信達 (琉球ブロック)

■委員長

広報委員会：白濱 力 (関東ブロック)
 研修委員会：鳴海 邦碩 (関西ブロック)
 事業委員会：横川 昇二 (関東ブロック)
 国際委員会：服部 圭郎 (関東ブロック)

代表幹事会

1. 総会

「第22期定例総会」は、2012年7月14日（土）の10時30分から、日本大学駿河台キャンパス理工学部5号館で開催された。第21期の活動報告・収支報告、第22期の活動計画・収支計画の他、役員改選の年であるため10名の代表幹事、13名の幹事（ブロック幹事）、2名の監査役が承認された。

会 員 数	正 会 員	準 会 員	特別会員	協力法人
2013.05.31	355名	9名	12名	11社

14時30分からシンポジウム『すこやかな都市』を開催し、田中淳夫氏（銀座ミツバチプロジェクト副理事長）による講演「都市が生み出す新しい価値」、コーディネーターに斉藤浩治氏（代表幹事）、プレゼンターとして酒本宏氏（代表幹事）、長町志穂氏（代表幹事）、埜正浩氏（北陸ブロック）の3名によるパネルディスカッション「広がる都市環境デザインの未来形」を開催。

その後、U-50プロジェクト報告（「漁村ネットワークの復興の姿検討」、「ヤン・ゲールの都市デザインに関する調査」）があり、懇親会が行われた。



懇親会は、「これからのJUDIについて」のコメントを書かないと飲めないルールで行なわれ、書かれたコメントは、翌日のワークショップで活用された。

翌日の7月15日（日）の午前中には、全体コーディネーターを斉藤浩治氏（代表幹事）、テーブルコーディネーターとして栗原裕氏（代表幹事）、酒本宏氏（代表幹事）、紺野朋子氏（関東ブロック幹事）、伊藤登氏（東北ブロック）、作山康氏（関東ブロック）、埜正浩氏（北陸ブロック）の6名による「JUDIの未来を考えるワークショップ」が開かれ、参加者全員でJUDIの将来の姿についての議論が行なわれた。



午後には「代表幹事会（新・旧代表幹事）」、「全国ブロック幹事会（新・旧ブロック幹事）」、懇親会が開催された。

7月16日（月・祝）には、エクスカージョンとして関東ブロック主催のまち歩き『スカイツリー周辺のまち

づくりを考える ー墨田区京島・向島界隈の今昔ー』が、スカイツリー見学も含めて企画された。

2. 代表幹事会

第21期（2012年度）の代表幹事会は経費削減のためにスカイプ会議を中心に計10回開催された。その内12月と4月の2回は、東京のJUDI事務局に集まり開催された。

- ◎ 第230回代表幹事会 [Skype 会議]
2012年6月22日（金）
出席：代表幹事9名・新代表幹事候補3名・事務局
- ◎ 第231回代表幹事会 [Skype 会議]
2012年8月24日（金）
出席：代表幹事9名・事務局
- ◎ 第232回代表幹事会 [Skype 会議]
2012年10月5日（金）
出席：代表幹事9名・事務局
- ◎ 第233回代表幹事会 [Skype 会議]
2012年11月9日（金）
出席：代表幹事7名・事務局
- ◎ 第234回代表幹事会 [旅費支給・JUDI事務局で開催]
2012年12月14日（金）
出席：代表幹事8名（内1名Skype）・事務局
- ◎ 第235回代表幹事会 [Skype 会議]
2013年1月25日（金）
出席：代表幹事8名・事務局
- ◎ 第236回代表幹事会 [Skype 会議]
2013年2月15日（金）
出席：代表幹事7名（内3名委任状）・事務局
- ◎ 第237回代表幹事会 [Skype 会議]
2013年3月22日（金）
出席：代表幹事10名・事務局
- ◎ 第238回代表幹事会 [旅費支給・JUDI事務局で開催]
2013年4月19日（金）
出席：代表幹事9名・事務局
- ◎ 第239回代表幹事会 [Skype 会議]
2013年5月24日（金）
出席：代表幹事10名・事務局



第 239 回の代表幹事会は、自主的に 6 名が大阪市の長町代表幹事の事務所に集まり、大阪－東京（2 名＋事務局）－福井－名古屋の 4 箇所でのスカイプ会議を行った。

大阪に集まった代表幹事 6 名は、関西ブロック会員とともに懇親会を開催、翌日は「第 21 回都市環境デザインフォーラム関西」にも参加し、関西ブロック会員と交流した。

3. あり方検討会

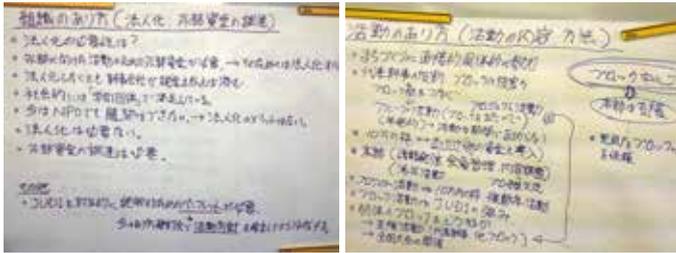
2011 年 12 月から開催している「あり方検討会」を今期(2012 年度)は 4 回開催した。金沢開催、大阪開催に際しては、各ブロック会員との交流もあった。

◎ 第 4 回あり方検討会

2012 年 6 月 17 日（日） 出席：7 名
場所：プランニングネットワーク（東京都北区）

◎ 第 5 回あり方検討会

2013 年 2 月 3 日（日） 出席：11 名（内 1 名 Skype）
場所：日本海コンサルタント（金沢市）



◎ 第 6 回あり方検討会

2013 年 4 月 20 日（土） 出席：11 名・事務局
場所：JUDI 事務局（東京都北区）



◎ 第 7 回あり方検討会

2013 年 5 月 25 日（土） 出席：8 名
場所：アルパック（大阪市）

「あり方検討会」では、これからの JUDI の姿を明確にするためのミッションとビジョンを提案した。



【ミッション（社会へ向けた宣言）】

私たちは、誇りと愛着を持って暮らし続けられる「質の高い環境」を創出するために行動します。

【ビジョン（ありたい姿の具体化）】

- ①私たちは、国内外の都市環境に関心を持つ人と連携し、環境の質を高め合う活動を継続します。
(協働の場の構築)
- ②私たちは、多様な価値観をつなぐ新しい社会の姿を提案することで、広く社会に貢献します。
(社会的な活動)
- ③私たちは、時代の要請を踏まえた柔軟な活動を提起し、次世代を担う人々とともに活動します。
(担い手の育成)

また、「都市環境デザイン会議」の名称の新しい意味づけについても提案した。

【組織名の意味】

- 『都市環境』とは、
生活に関わる全ての空間や仕組みのことである。
- 『デザイン』とは、
「都市環境」を構成するハード、ソフトの関係を適正に構築し、その質を持続するために維持・更新することである。
- 『会議』とは、
多様な価値観の人が分野を超えて集まり、協働する場である。

4. その他

2012 年 8 月 27 日に、都市環境デザイン会議事務局が下記に移転し、事務局の電話番号、ファクス番号、メールアドレスも変更した。

都市環境デザイン会議 事務局 〒114-0012
東京都北区田端新町 3-14-6 ノザキ G ビル
Tel.03-6240-8827 Fax.03-6240-8829
E-mail : postmaster@judi.gr.jp

北海道ブロック

1. 概要

2012年度は、「まち歩き」、「セミナー」「フォーラム」を実施した。旭川市買物公園をテーマとしたセミナーは関西ブロックとの共同企画で行い、当日には関東、中部からも JUDI 会員が参加し、全国的な取り組みとなった。

2. 岩見沢まち歩き

場 所：岩見沢市中心市街地

開催日：2012年9月1日（土）

参加者：JUDI 北海道 4名

一般（行政職員・学識者等）4名

概 要：駅前のわくわく感を再発見しながら、北海道の駅前空間を気軽に楽しく考えることを目的に、JUDI 北海道と北海道駅前わくわく研究会（仮称）との共催で、岩見沢駅から駅前通、中心市街地をめぐるまち歩きを実施した。



3. 歩行者空間の可能性を探る～買物公園を中心に～

場 所：旭川市買物公園周辺

開催日：2012年11月3日（土）～4日（日）

参加者：JUDI 会員 15名（北海道・関西・関東・中部）

一般（その他）3名

一般（学生）10名

概 要：旭川市買物公園誕生40周年にあたり、その実態を観察し、意義を再確認すると同時に新しい可能性を考えることを目的として、北海道ブロックと関西ブロックが共同で企画、開催するセミナーを実施した。

○セミナー 1 買物公園の成り立ちと40年を学ぶ

日 時：2012年11月3日（土）

場 所：まちなか交流館会議スペース「HIROBA」

- 「買物公園誕生」上映
／ 鳴海邦碩（JUDI 関西）
- 話題提供 建設当時の計画に関して
／ 大矢二郎（東海大学名誉教授）
- 話題提供 改修計画に関して
／ 大矢二郎（東海大学名誉教授）
- フィールド調査



4. 路面電車とまちづくり

～トータルデザインフォーラム～

会 場：札幌ユビキタス協創広場 U-cala

開催日：2013年5月31日（金）

参加者：JUDI 北海道 6名

登壇者（JUDI 以外）2名

一般（参加者）47名

概 要：札幌市の路面電車に新型デザインの車両が導入されたことを契機に、新型車両のデザインや市民参加のプロセスを紹介するとともに、参加者と一緒にデザインやまちづくりのあり方を考え、意見交換を行った。

○セミナー 2 歩行者空間デザインの可能性を探る

日 時：2012年11月4日（日）

場 所：フィール旭川7階 シニア大学

・基調講演：街は生きているー旭川平和通買物公園の
＜昨日・今日・明日＞

／大矢 二郎（東海大学名誉教授）

・学生ワークショップの成果発表

・フィールド調査を通じた買物公園の都市環境デザインの
視点的視点からの評価／ JUDI 会員



北陸ブロック

1. 概要

2012年度は、継続的に取り組んでいる都市環境デザイン会議フォーラムを金沢と富山において開催。

2. 都市環境デザイン会議 in 金沢

◎ミニフォーラム

「歴史的市街地におけるまちづくりを考える」

日 時：6月16日（土）13：30～15：45

会 場：長町研修塾

参加者：JUDI 会員 15名、一般 19名

●事例発表

「金沢市長町のまちづくりを語ろう」

谷明彦氏（金沢工業大学環境・建築学部教授）

「金屋町楽市 in さまのこ」

武山良三氏（富山大学芸術文化学部教授）

「縮小時代における歴史的資源の継承」

野嶋慎二氏（福井大学大学院工学研究科教授）

「大聖寺におけるまちづくりー参加と協働の現場から」

埜正浩氏（㈱日本海コンサルタント専務取締役）

●座談会「歴史的市街地におけるまちづくりを考える」

コーディネーター：谷明彦氏

パネリスト：武山良三氏、野嶋慎二氏、埜正浩氏



事例発表



座談会

フォーラムは、新ブロック幹事の島津勝弘氏の挨拶から始まり、事例発表として、はじめに、会場となっている長町地区のまちづくりに関わっている谷先生が、住民の減少や高齢化の進む地区の課題や現在の動きについて説明されました。続いて、武山先生から富山県高岡市金屋町でのアートイベント、野嶋先生から福井県高浜町和田地区での路地祭、埜氏から石川県加賀市大聖寺での市民主体のまちづくり活動について発表されました。座談会では、会場の参加者も交えて、意見交換を行いました。

<座談会での主な意見>

- ・イベントをやるだけでなく、長期的なことに結びつけていく工夫が必要。
- ・イベントは、当日だけでなく、そこに至るプロセスが大事。その繰り返しで、強固な人間関係ができる。かたちが変わっても継続することが大事。
- ・モチベーションを高めるためにも、売れることを考

えることも大事。

- ・東日本大震災で絆が見直されており、歴史的町並みはコミュニティを作るきっかけになり得る。
- ・歴史的市街地に住んでいる人は、まちや住まいに誇りを持っており、コミュニティをうまく作ってければ、まちづくりは進んでいくと思う。
- ・観光客の落とすお金を住民に還元する仕組みを考えていかなければならない。
- ・最初はバラバラでも、やっていくうちに、お互いの認知が深まって、距離間が縮まっていく。
- ・人口減少は全国的な課題。その中で、いかに今あるものを守っていけるかが課題。
- ・東京の人が週末に軽井沢に行くように、一人が二つ以上の地域の属性を持つことが加速していくべき。そういったニーズを地域の中で受け入れる体制を作ることが大事。
- ・高山のように、人が来すぎてもお土産街になる。どの程度が適切なのかを考える必要がある。
- ・ブランディングとクオリティ、情報戦略が大事。

また、フォーラムに先立ち、特別企画として、金沢工業大学谷研究室と金沢美術工芸大学鐔研究室の学生らによる長町地区の千田邸の庭園清掃活動の見学や、長町研修塾・匠心庵で長町まちづくり専門委員会によるお茶席も行いました。



学生らによる庭園の清掃活動



お茶席

◎見学会

日 時：10月13日（土）16：00～17：30

場 所：長町地区界隈

見学会では、金沢職人大学校により整備された長町研修塾の説明からスタートし、開渠化された鞍月用水、せせらぎ通りに整備された自転車走行指導帯、町家等の歴史的建造物を活用して近年オープンした店舗、長町武家屋敷跡界隈の足軽資料館や旧加賀藩士高田家跡、聖霊病院聖堂（金沢市指定文化財）、大野庄用水、今年3/24にスタートした金沢レンタサイクルまちのり（バイクシェアリングシステム）、9/29にオープンした金沢学生のまち市民交流館（金沢市指定保存建造物の建物を改修）などを見学しました。

3. 都市環境デザイン会議 in 富山

◎フォーラム

「魅力あるスローライフとまちづくり」

日 時：5月25日（土）15：00～17：30

会 場：とやまスローライフ・フィールド交流館

参加者：JUDI 会員 17名、一般 7名

●発表1「田園住宅開ヶ丘の整備について」

稲葉 實氏（学校法人富山国際職藝学園理事長）

大丸英博氏（職藝学院）

●発表2「とやまスローライフ・フィールド事業について」

本林成元氏（富山市農林水産部主幹）

●全体ディスカッション

「魅力あるスローライフとまちづくり」

コーディネーター：鏑 隆弘氏（金沢美術工芸大学教授）

パネリスト：稲葉 實氏

（学校法人富山国際職藝学園理事長）

徳本修一氏（株総合園芸代表取締役）

本林成元氏（富山市農林水産部主幹）

南條智子氏（開ヶ丘住民）

稲葉、大丸両氏より、「伝統の未来形 支え合う地域社会との出会い」と題し、『向こう三軒両隣そして背戸の家』を原則に、囲いを設けず、既存集落の人たちとの交流も図っている27戸からなる「田園住宅開ヶ丘」についてご説明をいただきました。

続いて、自ら市民農園を借り、スローライフを実践されている本林氏より、「とやまスローライフ市民農園（240区画）」のしくみや取り組みについてご説明をいただきました。



「とやまスローライフ市民農園」について発表される本林氏

<全体ディスカッションでの主な意見>

- ・まちなかと郊外がキャッチボールしながら両立していくことが元気になる＝交流ではないか。
- ・生き生きと生きる暮らしのステージ、ランドスケープに配慮した市民農園としての進化が必要。
- ・異文化を受け入れるためのひとつの典型が、開ヶ丘で試されている。
- ・開ヶ丘の自治は、集落のコミュニティにバトンタッチするのか？⇒今後も NPO の関与が必要。

コーディネーターの鏑氏が、田園住宅開ヶ丘は、自然

を暮らしの中で意識するうえで、その距離間を図る物差しである。土づくり等をはじめ、自然との付き合い方による伝統・知恵の蓄積が手仕事を通じて、お互いが共有できる機会（見る・知る）が多くあるのが、とやまスローライフ・フィールドの魅力のひとつではないかと締めくくりました。



コーディネーター鏑氏、パネリスト稲葉氏、徳本氏、本林氏、南條氏（左から）

◎とやまスローライフ・フィールド散策

日 時：5月25日（土）14：00～14：45

案 内：NPO 法人里山倶楽部

NPO 法人里山倶楽部の事務局でもある大丸氏のご案内により、田園住宅や開ヶ丘交流ゾーンを散策しました。市民農園から自然派レストランまで、スローライフのための多彩な施設が揃っています。



田園住宅開ヶ丘



とやまスローライフ市民農園

◎エクスカーション

日 時：5月26日（日）9：30～11：30

場 所：新湊市内川界限

エクスカーションでは、NPO 法人「水辺のまち新湊」の二口専務理事と観光ボランティア「あゆの風」の甲さんのご案内により、『日本のベニス』と称される新湊内川界限を散策しました。

また、旧畳屋を改築した「cafe uchikawa 六角堂」では、明石あおいさん（ワールドリー・デザイン代表・六角堂オーナー夫人）から、湊町の畳屋がカフェに生まれ変わった経緯をご説明いただきました。



『日本のベニス』を散策中



経緯を説明される明石あおいさん

関東ブロック

1. 概要

2012年度は、「キャラバン」、「ひとことサロン」、「押しかけリレーセミナー」を継続的に実施。また、次年度へ向けた新企画として、新セミナーを開催。

2. キャラバン

◎『まち歩き+忘年会 - 板橋宿を歩く』

訪問先 : 東京都板橋区
 実施日 : 2012年12月15日(土)
 案内人 : ボランティア案内人 4名(板橋観光センター)
 参加者 : J U D I 会員 15名
 [26名] 協力法人関係者 3名
 学 生 1名
 一 般 7名

内 容 : 板橋宿は、江戸の主要五街道整備時に宿駅として定められ、東海道の品川宿、甲州道中の内藤新宿、奥州街道の千住宿とともに、江戸四宿の一つに数えられた。今回は、板橋宿の近代への変遷の痕跡を、板橋観光センターのボランティアガイドの案内で歩き、その後忘年会を開催。



◎『変わりゆく住宅都市 世田谷散歩』

訪問先 : 東京都世田谷区
 案内人 : 春日敏男氏(世田谷区都市整備部)
 木村圭子氏(㈱アーバンイラスト制作室)
 実施日 : 2013年1月26日(土)
 参加者 : J U D I 会員 7名
 [8名] 一 般 1名
 内 容 : 世田谷区の方の案内で、三軒茶屋、明薬跡地開発、二子玉川、世田谷線沿線等をバスと電車を乗り継いで見学し、その後意見交換会を実施。

◎『温泉街の盛衰、NPO atamista の活躍

美しい海と丘陵、東京から46分の底力』

訪問先 : 静岡県熱海市
 実施日 : 2013年4月13日(土)
 案内人 : 市来広一郎氏(NPO法人アタミスタ)

崎谷浩一郎氏(㈱イー・エー・ユー)
 安仁屋宗太氏(㈱イー・エー・ユー)
 熱海市職員 3名

参加者 : J U D I 会員 17名
 [38名] 今回企画協力者 5名
 学 生 7名
 一 般 9名

内 容 : 駅前第一ビル(古い再開発)の見学・ヒヤリングを行い、熱海のまち歩きを実施。「NPO atamista」の活動概要の説明を受けた後、港地区の公共空間設計者の話を聞き、懇親会を開催。



3. ひとことサロン

◎『都市デザイン視点で見た仮設市街地』

会 場 : 法政大学市ヶ谷田町校舎都市スタジオ
 開催日 : 2012年10月4日(木)・18:30~
 パネラー : 松川淳子氏(㈱生活構造研究所)
 聞き手 : 高見公雄氏(法政大学)
 参加者 : J U D I 会員 10名
 [17名] 学 生 5名
 一 般 2名

内 容 : 「提言! 仮設市街地一大地震に備えて一」の著者の一人である松川淳子氏を迎え、東京に「仮設市街地」を計画する際の専門家の係わり方、リーダの育成手法などを、仮設市街地の意義・歴史・今までの取り組みを基に伺った。



4. 押しかけリレーセミナー

◎復活第12回

『吉村純一氏(ランドスケープデザイナー)』
 訪問先 : ㈱プレスメディア(東京都小平市)

- 開催日 : 2012年7月12日(木)・19:00～
 参加者 : J U D I 会員 4名
 [14名] 一般 10名
 内容 : ランドスケープデザイナーである吉村純一氏の事務所を訪ね、「ザ・キャピトルホテル東急」等の作品からその計画過程などの話を伺った。



◎復活第13回『鳥越けい子氏(サウンドスケープ)』

- 訪問先 : 日本橋川(東京都中央区)
 開催日 : 2012年9月8日(土)・15:45～
 参加者 : J U D I 会員 7名
 [11名] 協力法人関係者 1名
 一般 3名
 内容 : 鳥越けい子氏の企画する、都市楽師プロジェクトイベント『名橋たちの音を聞く』に参加。日本橋より「都市の音と呼応する古きヨーロッパの音色」便に乗船し、音楽を聴き、その後、鳥越氏、楽師の方と意見交換。



5. 総会支援

- ◎第22期 定例総会関連 まち歩きツアー
 『スカイツリー周辺のまちづくりを考える』
 ー 墨田区京島・向島界隈の今昔』

- 訪問先 : 東京都墨田区
 実施日 : 2012年7月16日(月・祝)
 案内人 : 小川幸男氏(墨田区観光協会)
 佐原滋元氏(NPO法人向島学会)
 参加者 : J U D I 会員 26名
 [55名] 協力法人関係者 1名
 学 生 3名
 一 般 25名
 内容 : スカイツリーの開業により、周辺の街

が如何に変貌していくのかを、押上、曳舟、東向島のまちを歩き、向島百花園で懇親会を開催。また、墨田区観光協会のご厚意により日付指定入場券を50枚購入し、各自スカイツリー展望台を見学。



6. JUDI 関東セミナー(新企画セミナー)

- ◎第1回『景観法制定から10年を目前にして』
 会場 : 法政大学市ヶ谷田町校舎 T 301 教室
 開催日 : 2013年5月13日(水)・19:00～
 講師 : 舟引敏明氏(国土交通省都市局公園緑地・景観課)
 地下調氏(国土交通省都市局公園緑地・景観課)
 司会 : 高見公雄氏(法政大学)
 参加者 : J U D I 会員 22名
 [48名] 協力法人関係者 1名
 学 生 17名
 一 般 8名
 内容 : 行政法への景観概念の導入経緯、景観に関連する各法制度、美しい国づくり政策大綱の政策レビュー、景観まちづくりの最近の話題などの話を聞き、参加者でディスカッションを行った。



7. その他

- ◎「TACHIKAWA アート in ファーム 2012」への協賛
 ◎「府中建築文化フォーラム」への協賛

中部ブロック

1. 概要

2012年度はメインの事業として「デザインセミナー」を三重・愛知・岐阜の各県から、船運が繋ぐまち探訪として桑名、名古屋、大垣市赤坂の3つの都市をめぐる街並み歩きデザインセミナーを行った。また、名古屋での街づくり懇談会開催と大阪でのJUDI関西総会でのシンポジウムに中部ブロックの事例を報告する活動を行った。

2. デザインセミナー

◎『～あいち・みえ・ぎふ 船運が繋ぐまち探訪～

Part 1 円頓寺四間道』

訪問先 : 名古屋市西区円頓寺商店街四間道界限

実施日 : 2012年10月13日(土)

参加者 : JUDI会員 6名

[8名] 円頓寺商店街 2名

内容 : 名古屋駅の近傍にありながら歴史街並みの残る四間道地区と、近年その活性化が注目される円頓寺商店街を名古屋都心の街中のお祭り「花車神明社」の宵祭の日に訪ねた。「円頓寺商店街でも、シャレた店が増えてきた」と改めて今度行く店を選び、「五条橋の歴史を学びながら、あそこにもシャレた店舗ができた」と再発見。円頓寺四間道を中心のミニコミ誌「ポウ」の編集の方々と一緒に宵祭を楽しんだ。

◎『～あいち・みえ・ぎふ 船運が繋ぐまち探訪～

Part 2 桑名』



訪問先 : 三重県桑名市旧東海道桑名宿周辺

実施日 : 2012年11月23日(金)

参加者 : JUDI中部会員5名 JUDI関東会員1名

[10名] ゲスト2名、ガイド1名+付添人1名

内容 : 13時に桑名駅集合。桑名歴史案内の

達人の伊藤通敏さんのガイドで桑名城下町であり、宿場町であった旧市街地を探訪。現存する桑名城跡の堀割の石垣の上に建つ民家、寺町商店街の脇を流れる外堀を改修した河津桜並木の散策路、青銅の鋳物で造られた春日神社の鳥居、七里の渡しの鳥居は伊勢街道の始まり地点。

旧東海道の道の真ん中に井戸があったり、アールデコ調の古い銀行建物を利用した石取会館で見た日本一やかましい石取祭の映像と実物の祭車。

桑名市博物館で開催中の展覧会で見たイギリス人のジョサイア・コンドルがケント紙に鉛筆で書いた六華苑の繊細な図面。ヴィクトリア朝住宅様式の建築である洋館と繋がった和館は一枚板など贅沢に木を使った数寄屋造り。物見塔の部分が図面では3階なのに現状は4階という面白さ。

伊藤通敏さんの詳細なガイド振りに、どんどんと古のイメージが膨らんだ桑名のまち歩きであった。



◎『～あいち・みえ・ぎふ 船運が繋ぐまち探訪～

Part 3 赤坂宿』

訪問先 : 岐阜県大垣市赤坂
 実施日 : 2013年5月11日(土)
 参加者 : JUDI中部会員 8名
 [42名] 岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学・岐阜経済大学の教員学生30名 桑名街歩き会4名

内容 : 今回のまち探訪「赤坂宿」は、岐阜大学、岐阜女子短期大学、岐阜経済大学3大学との合同開催となった。2013年5月11日、雨模様の中、JUDI中部ブロック7名、JUDIゲストには桑名まち歩きのメンバーなど4名に3大学の教員や学生など40名を超える参加者となった。大垣より更に奥まったところに赤坂港という名前の港の存在。杭瀬川はかつて揖斐川の支流で、水量も豊富で伊勢湾方面にも船運で通じ、桑名(まち探訪part2)や名古屋ともつながっていたのである。地域の歴史は古く、古墳、壬申の乱の時代、平安時代、戦国時代、江戸時代、明治時代など多くの時代の物語りがある、歴史の宝庫。美濃赤坂の駅は、矢橋大理石の石工場とつながり、石切場、土取場につながる線路がある。スイッチバック方式で街道を横切る形でかつて蒸気機関車が街中を横切った。

川港であった赤坂港にはおしゃれな洋館の赤坂会館。お茶は出ないが徳川家康の「お茶屋敷」跡と呼ばれる牡丹園には堀がめぐらされた後があり、戦国時代の名残がある。昼飯時間でもなかなか雨がやまない中、前方後円墳「昼飯大塚古墳」の円墳の頂上から眺める景色もまた格別。

午後、民家を改修した岐阜大学旧早野邸セミナーハウスで、大垣市まちづくり応援団の坂忠男さんより、赤坂のまちづくりの概要を伺い、学生を交えた5グループに分かれ、JUDIメンバーのファシリテーションで、まち歩きの成果をもとに赤坂宿のこれからを考えるワークショップを行った。歴史の宝庫で資源の豊かな、しかし観光地化していない静かなまち、ワークショップでも



語られたように「知る人ぞ知る赤坂」なのであった。

2. 街づくり懇談会

◎『延藤安弘先生を囲む錦二丁目のまちづくり懇談』

訪問先 : 名古屋市中区錦2丁目まちの会所
 実施日 : 2013年5月17日(金)
 参加者 : JUDI中部会員 6名+講師1名
 [7名]

内容 : 名古屋市中区の錦二丁目のまちづくりに取り組む延藤安弘氏をまちの会所に訪ね、錦二丁目のまちづくりの事例についてその状況をお聞きするとともに、JUDI中部のメンバーも交えた意見交換会をおこなった。この機会に新たなJUDI中部会員の入会があった。

3. シンポジウムでの報告

◎『都市環境デザインフォーラム・関西「都市環境のコンバージョンー残すもの、変えるもの、そのシカケとは』』

訪問先 : 大阪市北区大阪駅前
 実施日 : 2013年5月25日(土)
 参加者 : JUDI中部会員 2名
 [35名]

内容 : 都市環境デザインフォーラム・関西「都市環境のコンバージョンー残すもの、変えるもの、そのシカケとは」の中で、中部ブロックの柳田が「岐阜のコンバージョンー都市環境と建築」と題して、岐阜県美濃市の伝統的建造物群保存地区と旧岐阜県庁舎の保存問題について発表するとともに、シンポジウムのパネラーとして討議に参加した。

関西ブロック

2012年の活動概要

継続的に取り組んでいる都市環境デザインセミナーと都市環境デザインフォーラムを例年通り開催。また新たな取り組みとして、会員の自主的な企画提案によるJUDIプロジェクトを実施。その中で他ブロックや他団体との連携も推進。

都市環境デザインセミナー

<記録は、ブロックホームページにて公開中。

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/judi/> >

2012年度参加者：会員 96名、一般 209名、学生 56名

2012年

- 7月28日 北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想—
空き家、空き工場を創造活動の場—
講師：芝川能一



- 8月31日 都市環境デザインの再生—人間中心の都市・まちづくりへ転換できるか
講師：中野恒明
- 9月28日 揃えないこと・揃えること—美しい南仏小集落から
講師：江川直樹、井口勝文
- 10月12日 ソウル、釜山の都市の魅力づくりの最新事情
講師：金永敏
- 11月29日 まちづくりの「まち医者」これからの専門家像を探る
講師：泉英明
- 12月17日 大阪の埋め立ての進展とその環境—江戸・明治期を中心に
講師：上甫木昭春、田原直樹、柴田祐

2013年

- 2月22日 風景を使いこなすデザイン
講師：忽那裕樹
- 3月1日 緊急セミナー「御堂筋の活性化に関する検討調査中間とりまとめ」について
話題提供：鳴海邦碩、土井幸平 他
- 3月22日 市民レベルの広場活用・まちの魅力発信活動～姫路駅周辺整備・姫路城修理完了を前にして
講師：米谷啓和、長谷川香里、篠原祥

- 4月26日 若者のためのまちづくりの仕事入門「まち女子」の生き方・働き方にみる、まちづくりの仕事の魅力
講師：中村裕子、長谷川香里、杉本容子
- 5月11日 新しい力が奈良を元気に！「夢キューブ」の試み—まち歩き
講師：松森重博、片桐新之介

第21回都市環境デザインフォーラム・関西

『都市環境のコンバージョン—残すもの、変えるもの、そのシカケとは』

2013年5月25日（土） キャンパスポート大阪
参加者 49名（うち会員 36名）

概要

既存の環境の上になんからの行為が加えられ、積み重なり形成される都市環境に対して、再開発や再生、復興という表現が、イメージ、あるいは期待する姿は何か。その地の都市環境にとって、大切なもの、骨格となるものを残し、まちの輝きを取り戻す手法を都市環境のコンバージョンと仮に定義し、そのあり方について議論。

議論に先立ち、問題的として下記のフィールド、プロジェクト紹介を行い、次いでコーディネーター（山本一馬・関西ブロック）のもとでパネルディスカッションを実施。

- ・岐阜の歴史的環境でのコンバージョン—歴史的町並と歴史的建造物— 柳田良造（JUDI 中部）
- ・旭川市・平和通買物公園から考える—都市環境のコンバージョン— 酒本宏（JUDI 北海道）
- ・都市環境のコンバージョンと生業（なりわい）表出の景観— 中村伸之（JUDI 関西）
- ・地震や津波による被害からの海辺集落の復興— 淡路島からの報告— 柴田祐（JUDI 九州）

JUDI プロジェクト

<報告書本編は、JUDI ホームページにて公開中。

<http://www.judi.gr.jp/menu-3-4.html> >

- ①歩行者空間デザインの可能性を探る—旭川市買物公園を中心に（北海道ブロック、研修委員会、地元行政・大学と連携）

40周年を迎えた全国初の恒久的な歩行者専用道路である旭川買物公園を主な対象に、都心の歩行者専用道路の都市環境デザインや歩行者空間の質といった点から評価し、これからの展望。

活動概要

現地で旭川市買物公園の整備過程に関するレク

チャー、フィールド調査、歩行者空間デザインセミナー（地元大学生による次代の買物公園を考えるワークショップ、参加者全員による買物公園の評価と歩行者空間整備の展望の発表等）を実施。

セミナーは北海道新聞に掲載され市民から一定の反響があり、セミナーの発表内容は提言書として旭川市役所に提出。

メンバー 12 名、外部協力者約十数名（旭川市、北海道新聞、東海大学旭川校、北海学園大学の教員・学生等）



②都市ブランドを創造する屋外広告物の研究（京都の歴史的市街地を対象として）

京都市歴史的市街地のうち先斗町、木屋町、姉小路通、三條通を調査対象地区とし、都市ブランドの創造に貢献し、都市の活力を呼び起こす屋外広告物や店舗のあり方を研究し提案。

活動概要

屋外広告物等が形成する景観調査シートを作成し、対象地の特性と広告物のあり方を分析。屋外広告物・店舗デザインの仮説的ガイドライン案を作成し、地元キーパーソンも交えた研究会を開催。それら成果を中間合評会や関西ブロック・フォーラムで発表。その後も「姉小路通界隈を考える会」などの地域まちづくり団体の定例会に参加し継続的にヒアリングや意見交換。

メンバー 8 名、外部協力者 2 名（NPO 法人ストリートデザイン研究機構、NPO 法人京都景観フォーラム）



③地震や津波による被害からの海辺集落の復興に関する調査（北海道、九州ブロックと連携）

東日本大震災に限らず、これまでも多くの海辺の集落が地震により被災し、さまざまな方法で復興に取り組んできたが、復興事業に限っても、事業完了後の様子も含めて横断的に調査・比較したものは多くないことから、

過去の復興事業を調査・比較し、事業の有効性や課題について整理。

活動概要

奥尻島、玄界島、淡路島の復興プロジェクトの現在の状況について、文献及び現地を調査し、都市環境デザインフォーラム等（5/25 関西ブロック主催）で発表。

メンバー 17 名



④東日本大震災における自主復興の実態に関する調査（東北ブロックと連携）

東日本大震災からの復興では大きな計画がクローズアップされることが多いが、現場ではそれぞれができる範囲で個別の復興を進めていると思われることから、自主復興の実態の一端を見いだすことを目的として、ヒアリングや事例調査を実施。

活動概要

宮城・福島震災復興支援局、復興庁気仙沼支局、国土交通省の現地職員と意見交換。名取、亘、塩竈、南三陸、気仙沼等の復興商店街や漁村集落の状況を調査。

メンバー：13 名



中国ブロック

1. 概要

2012年度の活動としては「都野津の赤瓦の町並み見学と有福温泉町歩き」、「周防大島のホテル再生と観光開発についての勉強会」および「JUDIプロジェクト 有福温泉再生にむけた都市環境デザインの提案」を行いました。

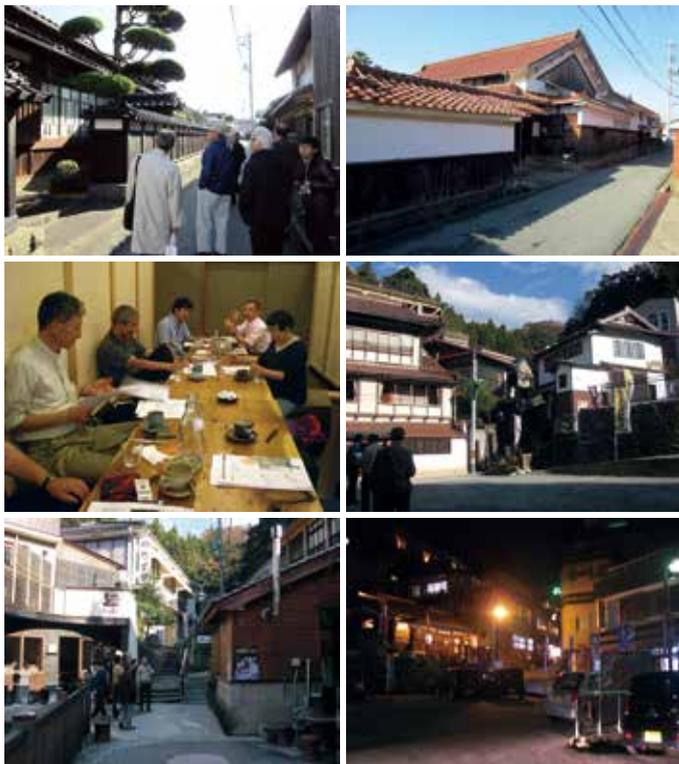
2. 都野津の赤瓦の町並み見学と有福温泉町歩き

訪問先：島根県江津市

実施日：2012年11月24、25日

参加人数：6人

内容：赤瓦で有名な石州瓦の産地である江津市の都野津町は赤瓦の町並みが残っている地区である。その町並みとその地区の中に建つ川本屋の見学を行った。
有福温泉ではJUDIプロジェクトの事前作業として町歩きと景観調査、空家調査及び有福温泉まちづくり協議会へのヒアリングを行った。



3. 周防大島のホテル再生と観光開発についての勉強会

訪問先：山口県周防大島町、柳井市

実施日：2013年2月16、17日

参加人数：6人

内容：ホテルサンシャインサザンセットを再生をさせた内藤博之（元ホテルサンシャインサザンセット社長）を招いて地域住民を巻き込んだ観光開発とそれによるホテル再生についての話を伺った。

翌日は隣接する柳井市の重要伝統的建造物群保存地区である古市・金屋地区の妻入形式の町並みの景観修景を視察した。



四国ブロック

1. 概要

2012年度は、継続して実施している「四国環境デザイン紀行」を徳島県と香川県で開催した。

2. 第22回 四国環境デザイン紀行：都市景観セミナー「伝統産業と都市デザイン／醸造業を中心に吉野川沿いを巡る見学会」

場 所：徳島県三好市から徳島市まで

日 時：2013年4月13日（土）

参加者：会員5名、一般5名

内 容：徳島県吉野川沿いは、酒、醤油、味噌などの醸造業、藍や煙草など産業が生んだ建物群などが多く残る地域である。見学会では、伝統的な産業がつくるまち並みや酒蔵、醤油製造所など建物を見学。醸造業の経営者から地域産業の現状や課題についての話を聞いた。見学コースは、三好市池田町を始点に吉野川沿いに下り、井川町、鳴門市、徳島市内まで。徳島市内では醸造に詳しい専門家を講師に招き醸造事業者の現状や最近の製品を体験するなどの講座を開催した。



3. 第23回 四国環境デザイン紀行：都市景観セミナー「街路と海岸の緑化／高松市中心部の緑化事例の見学」

…あわせて栗林公園周辺の景観形成の経緯について解説

場 所：香川県高松市内

日 時：2013年5月26日（日）

参加者：会員6名、一般7名

講 師：香川大学工学部建設システム建設工学科
教授 増田拓朗氏（JUDI 四国会員）

内 容：長年にわたり会員の増田拓朗氏が取り組んできた高松市の都市緑化と都市景観形成についての見学会。

①中央通りのクスノキ並木

中央通りは戦災復興でつくられた高松市中心市街地のシンボルロードで、クスノキ街路樹はその象徴となっている。しかし植栽帯が狭く生育に問題が発生、交差点部では信号機など視界確保が求められるなど課題を抱えていた。問題にどのように対応したのか、現地を歩きながら詳しい解説を受けた。



②サンポート高松(埋め立てによる区画整理)の緑化

高松港の埋め立て地という地質、立地、景観などの問題にたいして公園や街路の緑化をどのように進めたのかを解説。



③栗林公園と周辺の景観コントロール

特別名勝「栗林公園」の周辺は住宅地として人気の地域で、近年、中高層建物がたくさん建ちはじめた。公園の重要な場所からこれら建物が視界に入るようになり、最近、周辺建築物等の規制など景観施策が動き始めた。問題の始まりから規制までの経緯などについて、解説を聞きながら園内を見学した。



4. 四国ブロック総会

場 所：香川県高松市・サンポートホール会議室

日 時：2013年5月26日（日）

参加者：会員6名

内 容：事業報告及び事業計画の報告承認他、JUDI 四国の今後の在り方等について話し合った。

九州ブロック

1. 概要

2012年度は「博多まちづくりシンポジウム」、「まちづくりセミナー」を実施した。また、JUDI 関西プロジェクトの一環として、玄界島視察に参加した。

2. 博多まちづくりシンポジウム

◎概要

目的：九州新幹線全線開業から1年あまりが経過し、博多駅周辺地区はまちづくりの大きな転換期を迎えている。

『博多まちづくり推進協議会』は平成20年4月に設立され、官民が一体となってまちづくりに取り組むエリアマネジメントも一定程度定着しつつある中、次なる中長期的な展開を目指している。

こうした状況を踏まえ、有識者を招聘した講演・ディスカッション、参加者によるワークショップ等を通じて、今後の「博多」のまちづくりの方向性を探る。

主催：博多まちづくり推進協議会、JUDI九州ブロック

協力：西日本新聞社

後援：公益財団法人福岡アジア都市研究所

◎プレワークショップ

開催日：2012年11月14日（水）

会場：西日本シティ銀行本店大会議室

テーマ：クリエイティブ・コミュニティビルのつくり方

講師：梯輝元（中屋興産(株)代表取締役）、
田坂逸朗（ファシリテーター）

参加者：20名

内容：基調報告として、梯輝元氏より、所有する中屋ビルで実践したビル再生の手法を報告いただいた。

続くワールドカフェでは、博多のビル再生について参加者が話し合い、①ビルオーナーの意識付け・姿勢を変えるようなキッカケづくり、②クリエイターやアーティストなど新たな人種を呼ぶことによる地域ブランド創出、③博多らしさを追求した街なかでのきめ細かな空間づくり、④様々な世代や地域、外国人とつながるネットワークづくり、などのアイデアが出された。



◎シンポジウム

開催日：11月19日（月）

会場：グランドハイアット福岡

テーマ：都市型コミュニティの創造と再生～プラットフォームづくり

講師：橘昌邦（株式会社POD 共同代表）
大久保昭彦（コーディネーター、西日本新聞社）
嶋田秀範（中屋興産(株)管理人）
有隅基樹（博多まちづくり推進協議会事務局長）
尾辻信宣（JUDI）

参加者：61名

内容：基調講演では、橘昌邦氏より、江戸時代の職能としてあった『家守』を現代版にした“三方よしのまちづくり”（貸し手によし：不動産の管理・運営、借り手によし：テナントの面倒、まちによし：まちの管理・運営）の手法でビル・街を再生した事例を、神田を中心に紹介された。

パネルディスカッションでは、「博多は特徴・個性を出しきれていない」、「ビルオーナーの資産が高くなるマネージメントと周囲との連携が大切」、「クリエイターや専門家など、もっと沢山のプレーヤーに活躍してもらおう」など、今後の博多のまちづくりについての様々な意



見が示された。

コーディネータの大久保氏から、シンポジウムの参加者とともに博多のまちづくりのプレーヤーとして活躍することを期待したい」と呼びかけがあり、「その中心的なプラットフォームとして博多まちづくり推進協議会があり、重要な役割を果たしてもらいたい。」と締めくくり、シンポジウムを終了した。

3. まちづくりセミナー

◎中野恒明さんと話そう『社会のシフトの仕方～人間中心のまちへ』

日 時：2012年10月10日(水)

会 場：レンタルカフェ 榎

共 催：風景デザイン研究会

講 師：中野恒明(芝浦工業大学・JUDI)

パネラー：波木健一(株福山コンサルタント)

星野裕司(熊本大学)

参加者：40名

内 容：中野氏の著書「都市環境デザインのすすめ」の内容を中心に、歩行者主体のまちづくりについて講演。



◎人口減少と都市空間の希薄化について～郊外住宅地から限界集落まで～

日 時：2013年5月18日(土)

会 場：福岡天神ビル会議室

講 師：柴田 祐(熊本県立大学)

参加者：21名

内 容：

- ・大阪都市圏周縁部の郊外住宅地の高齢化と持続性について
- ・地方都市における市街化区域内農地について
- ・兵庫県山間部の限界集落について



4. 玄界島視察

日 時：2013年1月19日(土)

参加者：6名

内 容：JUDI 関西のプロジェクトの一環として、2005年福岡県西方沖地震で大きな被害を受け、その後迅速な復興がなされた玄界島を視察。



琉球ブロック

1. 概要

2012年度は、戦後のアメリカ文化は沖縄の風景に何を残したか、復帰後の沖縄の風景をどう評価するのか、などの観点から「建築まち歩き」、「専門家ヒアリング」を継続的に実施。別に「他ブロックとの連携・交流」も行った。

2. まち歩き

◎建築まち歩き

- 現地：那覇まちぐわー界限
 実施日：2012年6月9日（土）
 参加者：JUDI会員4名
 内容：復帰後の沖縄の風景をどう評価するのか、などの観点から本土復帰以前に建築されたユニークな建物を見て歩きながら、戦後沖縄の都市形成に貢献してきたコンクリート建築の技術やデザイン等の面白さなどについて話し合い、現在に継承されているデザインコードはあるのかなどを考察した。



3. 専門家ヒアリング

◎造園専門家 山城岩夫氏に聞く

- 場所：首里「守礼」
 実施日：2012年9月10日（月）
 参加者：JUDI会員3名
 内容：NPO法人首里まちづくり研究会事務局長兼理事である造園専門家の山城岩夫氏に「琉球の庭園」について話を伺った。琉球の庭園は大規模なものは池泉回遊式で中国の要素が強く、小規模な庭は枯山水で日本の影響が強いなど、興味深い話が伺えた。

◎建築専門家 入江徹氏に聞く

- 場所：国建会議室
 実施日：2013年6月11日（火）
 参加者：JUDI会員4名
 内容：気鋭若手建築専門家の入江徹氏（琉球大学工学部准教授）に戦後沖縄の建築の変遷などについて伺った。独特の切口で戦後沖縄建築文化の流れを表現しており、近年は赤瓦などが安易に使用されている記号主義に陥っているのではないかとの指摘が印象的であった。

◎ランドスケープ専門家 島田宏光氏に聞く

- 場所：国建会議室
 実施日：2013年6月24日（月）
 参加者：JUDI会員4名
 内容：ランドスケープ専門家の島田宏光氏にアメリカ文化による影響などについて伺った。米軍住宅地やかつての米軍ビーチの芝生の美しさなどは管理の徹底によるものであった。建築と比べてランドスケープは長い時間軸で捉える必要があり、また自然を細かくいじらないことが大切だ。

◎土木・交通専門家 上間清氏に聞く

- 場所：水プラッサA棟ケニーズ新都心店
 実施日：2013年7月31日（火）
 参加者：JUDI会員4名
 内容：土木・交通に詳しい琉球大学名誉教授の上間清氏に、自身の生活実体験に基づく戦前から現在までの沖縄の風景の変遷について語って頂いた。米軍施政下の諸施設建築物が沖縄の景観に与えた影響などを、出現景観の特性や米琉の相互影響など、いくつかの切口で興味深く語った。



4. 他ブロックとの連携

◎関西ブロックの協力による景観まち歩き

- 現 地 : 京都姉小路界隈、三条界隈
 実施日 : 2012年9月19日(水)
 参加者 : JUDI 会員3名、沖縄県職員3名
 案内人ほか4名
 内 容 : JUDI 関西メンバーの協力のもと、姉小路界隈を考える会、NPO 京都景観フォーラムの案内により姉小路の取り組み状況解説、京都三条界隈の近代建築見学のあと、京町屋・さいりん館にてまちなみ整備と暮らしを守る取り組みについてレクチャーを受け交流を深めた。



できた。博多駅前ではビルの高さが揃っているのは航空法の規制によるものであった。

◎関西ブロックメンバーによる景観レクチャー

- 会 場 : 那覇市自治会館会議室
 実施日 : 2012年12月13日(木)
 参加者 : JUDI 会員2名、沖縄県職員3名
 委員会委員11名
 内 容 : 沖縄の風景づくり人材育成計画の委員会に JUDI 関西ブロック中村伸之氏を招いて「専門家・NPO の立場から風景づくり人材を考える」をテーマにレクチャーしてもらうとともに、姉小路界隈を考える会事務局長の谷口親平氏からは「町式目を復活させた平成のまちづくり」の体験報告を頂いた。



◎九州ブロックの協力による景観まち歩き

- 現 地 : 福岡博多界隈
 実施日 : 2012年9月21日(金)
 参加者 : JUDI 会員3名、沖縄県職員ほか4名
 内 容 : JUDI 九州ブロックメンバーの協力のもと博多のまちづくり協議会について解説を頂き、天神から博多駅までを散策した。企業や自治会などが主体となった景観まちづくり活動などがこれからより重要になってくることが実感



5. 総会出席

◎総会および全国ブロック幹事会

- 会 場 : 東京御茶ノ水日大理工学部5号館
 実施日 : 2012年7月14日(土)-15日(日)
 参加者 : JUDI 会員1名
 内 容 : 第22期定期総会(東京)に出席した。総会後の講演「都市が生み出す新しい価値」田中淳夫氏(銀座ミツバチプロジェクト副理事長)は目からうろこであった。その後、パネルディスカッション「広がる都市環境デザインの未来形」、U-50 プロジェクト活動報告と続き、懇親会で交流を深めた。



有福温泉－伝統的温泉街の復興に向けたビジョンづくりと活動支援

【目的】
 1350年の歴史を持つ島根県江津市有福温泉は「山陰の名湯」として知られ、石州赤瓦の家並みと来待石の石積み階段、水路から沸き上がる湯煙などに特徴のある情緒豊かな小さな温泉地である。古くからの温泉街であるため、道路は狭く木造建築物が密集しており、平成22年には温泉街の中心部で火災が発生し、3件の旅館が焼失して空き地となり温泉街が空洞化している。
 現在、共同浴場3軒と6軒の旅館が営業を行っている。

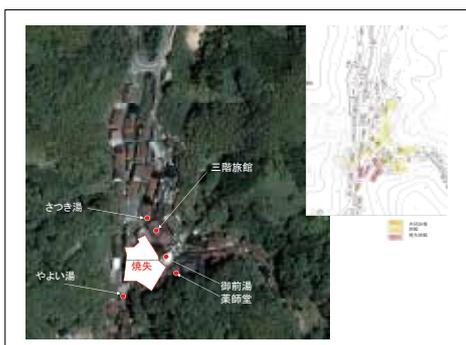
地元では住民主体の「まちづくり協議会」を結成し、空き地利用と温泉街の活性化を検討しているが具体的なビジョンに欠けるなどの問題がある。

JUDIがビジョンづくりと復興活動を支援する。



【活動報告】

- 10月26日 岡山市 JUDIプロジェクトの進め方と内容の協議
- 11月24日 有福温泉 全体ディスカッション (有福温泉の復興に向けた課題とビジョンについて)
 「まちづくり協議会」 伊田光雄会長
 有福復興株式会社 樋口忠成氏
 石州瓦産業組合 佐々木啓隆氏
 島根県建築士会江津支部 島崎啓至
 JUDI中国支部
- 11月25日 有福温泉 景観調査、空き家調査
- 4月14日 松江市 取りまとめ方針の協議
- 5月31日 報告書のとりまとめ
- 6月15日 協議会へ提出



温泉街の復興の課題

1. 人口減少と高齢化、過疎化が進んでいる
 有福温泉町 636人(平成2年)→503人(平成22年) 21%の減少

市全体では年平均13%の減少

温泉街の復興の課題

2. 古い歴史を持つ温泉街だが、周囲に新たな温泉地ができ唯一性が薄らいでいる。

美又温泉
 旭温泉
 風の国
 リゾパークきんたの里



基本目標
 赤瓦と石段の情緒あふれる温泉街の復興

整備方針

1. 温泉街へいざなうアプローチの整備
2. 業師堂へ続く石段に赤瓦の美しい温泉街の再生
3. 周囲をつなぐ散策路の整備

1. 温泉街へいざなうアプローチの整備

○温泉街のエントランス

温泉街の入口にはかつて門が設置されていた。エントランス整備が必要。

出湯橋からは手入れのされていない川の法面。四季を感じる植栽による演出。

博多まちづくりシンポジウム

1. シンポジウムの開催目的

九州新幹線全線開業から1年あまりが経過し、博多駅周辺地区はまちづくりの大きな転換期を迎えている。『博多まちづくり推進協議会』は平成20年4月に設立し、官民が一体となったまちづくりに取り組むエリアマネジメントも一定程度定着しつつある中、次なる中長期的な展開を目指している。

『都市環境デザイン会議九州ブロック』では、成熟する社会・日本の都市環境において所有する不動産から使う不動産への転換が模索されている今、都市空間を創り出している仕組みや背景、および都市環境デザインの役割と有効性の再構築が課題となっている。また、博多まちづくり推進協議会が取り組んでいる全国でも先進的なエリアマネジメントについて、専門家集団である都市環境デザイン会議が如何なる役割を果たすことができるかを考えるきっかけとしたい。

そうした両者の視座を踏まえ、博多まちづくりシンポジウムでは、有識者を招聘した講演・ディスカッション、参加者によるワークショップ等を通じて、今後の「博多」のまちづくりの方向性を探ることを目的とし、シンポジウムを開催することとなった。

■主催 博多まちづくり推進協議会／都市環境デザイン会議九州ブロック

■協力 西日本新聞社

■後援 公益財団法人福岡アジア都市研究所

■開催概要

【プレワークショップ】

- 日 時：11月14日（水）15:00～17:00
- 会 場：西日本シティ銀行本店大会議室
- テーマ：クリエイティブ・コミュニティビルのつくり方
- 内 容：基調報告、ワールドカフェスタイルのワークショップ
- 講 師：梯輝元、田坂逸朗（ファシリテーター）
- 参加者：20名

【シンポジウム】

- 日 時：11月19日（月）13:00～15:30
- 会 場：グランドハイアット福岡
- テーマ：都市型コミュニティの創造と再生～プラットフォームづくり
- 内 容：基調講演、パネルディスカッション
- 講 師：橘昌邦、大久保昭彦（コーディネーター）、嶋田秀範、有隅基樹、尾辻信宣
- 参加者：61名

2. プレワークショップ

基調報告として、中屋興産株式会社代表取締役の梯輝元氏より、所有する中屋ビルで実践したビル再生の手法を報告いただいた。中屋ビルでは、3つのステージ（メルカート、フォルム、ポポラート）を掲げ、それぞれ若手作家や大学をはじめとした応援団とともに、段階的なビル再生を行った。

通常の不動産価値や経済原理だけでない発想で、戦略をたて、様々な協力者とのつながりで老朽化したビルを再生し、それを応用しながら街づくりへと展開していく手法が紹介された。



梯輝元氏



再生されたビル（当日資料より）

ワールドカフェでは、田坂逸朗氏のファシリテーションにより、参加者のディスカッションで博多のビル再生のアイデアが出され、大きくは次の6つに整理される。

- ①ビルオーナーの意識付け・姿勢を変えるようなキッカケづくりが必要。
- ②表通りは良いが、裏の暗いイメージを戦略的に変える取組みが必要。
- ③クリエイターやアーティストなど新たな人種を呼ぶことで今までにない地域ブランドを創出する。
- ④博多らしさを追求した街なかでのきめ細かな空間づくりが必要。
- ⑤様々な世代や地域、外国人とつながるネットワークづくりが必要。
- ⑥博多にしかないもの、博多でしかないものなど博多の魅力を発見・発信する。



田坂逸朗氏



ワールドカフェの成果



ワールドカフェ

3. シンポジウム

基調講演では、株式会社POD共同代表の橘昌邦氏より、江戸時代の職能としてあった『家守』を現代版にした手法でビル・街を再生した事例を、神田を中心に紹介された。都市の空洞化の諸問題にさらされていた神田の本質を的確に捉え（ビル空室率の悪化、地場産業の衰退、商店街の消滅、都心の過疎化）、その上で、『現代版家守』の手法“三方よしのまちづくり”（貸し手によし：不動産の管理・運営、借り手によし：テナントの面倒、まちによし：まちの管理・運営）に取り組んでいる。まず拠点づくり・キックオフイベントから始まり、複線型の活動に展開していく方策（拠点の整備・連携、地域プロモーション活動、仲間づくり活動、ビジネスモデルづくり、お金の仕組みづくり、人材育成）へと展開していく事例が紹介された。その中で、「オーナーのためになるまちづくりが基本」、「ビル単体での再生には限界がある。まちのブランド化やイベント等ソフト事業による不動産価値の向上」、「クリエイター、若者、専門家などの活用」が重要だと強調された。

リエイターや専門家など、もっと沢山のプレーヤーに活躍してもらう」など、今後の博多のまちづくりについての様々な意見が示された。後半では、シンポジウムの企画を担当した尾辻氏より「博多らしい再生の手法を見出してもらいたい。」との期待が寄せられ、博多まちづくり推進協議会事務局長の有隅氏より「博多まちづくり推進協議会は、様々なプレーヤーの相談・提案の受け皿、プラットフォームとしての役割を果たしていく」との決意表明があった。コーディネータの大久保氏から、最後にシンポジウムの参加者へも「ともに博多のまちづくりのプレーヤーとして活躍することを期待したい」と呼びかけ、「その中心に博多まちづくり推進協議会があり、重要な役割を果たしてもらいたい。」と締めくくり、シンポジウムを終了した。



橘昌邦氏



当日資料より



大久保昭彦氏 尾辻信宣氏 嶋田秀範氏 有隅基樹氏



会場風景



会場風景

パネルディスカッションでは、西日本新聞社の大久保昭彦氏がコーディネータを務め、パネリストは基調講演の橘氏に加え、小倉魚町のリノベーション事例を紹介する嶋田秀範氏（中屋興産(株)管理人）、博多まちづくり推進協議会の事務局長を務める有隅基樹氏、都市環境デザイン会議の尾辻信宣氏の計5名で行われた。

その中で、博多は「持っている特徴・個性を出しきれていない。その分、可能性は十分ある。」、「ビルオーナーの資産が高くなるマネジメントと周囲との連携が大切」、「みんながウィンウィンになる取組みが必要」、「ク

4. まとめ

プレワークショップとシンポジウムの2日に渡り、様々な講師による議論が交わされ、今後の『博多』のまちづくりにおける貴重な知見が得られた。特に橘氏が手掛ける『神田における家守型まちづくり』は都市再生のモデルとなる貴重な実践例として参考になる内容であった。このシンポジウムで得られた知見が、『博多』のまちづくりで活躍する各プレーヤーのヒント、キッカケとなることを期待したい。



新聞掲載（西日本新聞 11/20 朝刊）

都市ブランドを創造する屋外広告物の研究

本プロジェクトは、都市環境デザイン会議（関西・関東ブロック有志）、NPO 法人京都景観フォーラム、NPO 法人ストリートデザイン研究機構の共同研究で「都市ブランドを創造する屋外広告物の研究～京都の歴史的市街地を対象として」というテーマで実施している。

先進的な景観行政で注目を集める京都市の歴史的市街地を調査対象地区とし、都市ブランドの創造に貢献し、都市の活力を呼び起こすような屋外広告物・店構えのあり方を研究し提案するものである。なお、このプロジェクトは JUDI 本部および関西ブロックの助成を受けて実施している。（2012,13 年度）

京都市では 2007 年の新景観政策施行以来、町並みにそぐわない看板が減少し、屋外広告物政策は目に見える成果を着々と上げている。歴史的な花街として有名な先斗町では、地元のまちづくり協議会が率先して、路上に張り出した看板の撤去を行っている。

今年 8 月までが不適正な屋外広告物を撤去する猶予期間である。では、その後に、どのような屋外広告物をつくるべきなのだろうか？

今後、求められるのは、地域住民・事業者とともに細かなエリアごとの都市ブランドを探り、ブランド力を高めるような屋外広告物や店舗のデザインを行うことである。

本プロジェクトでは、現実の町並みを対象に屋外広告物のデザインガイドラインを提案し、具体的なデザインを提示することを目標とした。そのようなガイドラインが可能であるかを検証するためである。

2012 年度は「調査編」として、三条通、姉小路通、木屋町通、先斗町通を対象エリアとしてフィールドワークを行うとともに、絵画史料から京の町並みの看板風景を分析した。（図 1～5 は宮沢功氏撮影）



図 2. 知る人ぞ知る老舗が並ぶ姉小路通



図 3. 繁華街である木屋町通では看板が氾濫している



図 4. 木屋町通の高瀬川越しに店舗を見る



図 1. 三条通はかつての東海道につながる中心街



図 5. 先斗町では花街の風情を守ろうとしている

図6は江戸時代前期の『洛中洛外図（歴博D本）』の一部で、二条城付近の店並みを描いている。店舗の間口は大きな暖簾（のれん）で覆われており、屋号が大きく染めこまれているが、板看板や提灯は見られない。暖簾には日よけ・風よけの実用的な機能だけではなく、魔除け・結界の役割があったといわれる。「暖簾を守る」「暖簾を分ける」という言葉が象徴するように、ブランドを体現する存在であったと思われる。

図7は江戸時代後期の『三条油小路町西側・東側町並絵巻』（1820）の町並みと看板をパターン化したもので、次のような業種による特徴が見られる。

- 特定の取引先だけで商売をする染め関係の職人さんは屋号の暖簾を掛けるだけ。閉鎖的で内部も見えない。
- 屋号だけでは何屋かわからない＝一見さんは想定外。
- 各店にはぱったり床几があり、通りがコミュニティの場になっている。
- 釜師（鋳物）は戸を開け放ち、鍋を並べている。商品が看板の役割を果たしている。し好品である煙管屋は上下に看板を出して戸を開けている。



図6. 『洛中洛外図』にみる暖簾の江戸時代の店並み

図8は明治時代のガイドブック『都の魁（さきがけ）』（1883）の店舗と看板をパターン化したもので、不特定多数（一見さん）の客を期待している

- 高価な品（呉服など）を扱う店は水引暖簾、長暖簾などで屋号（ブランド）を強調する。
- 和菓子のように多様な商品がある業種では、看板・暖簾・提灯で主力商品名を強調する。
- 外国人向けのお土産屋では、文字よりもビジュアルで勝負する。
- 薬屋は薬効を看板で権威づける。（看板の呪力？）

図9は現代（2013）の姉小路通の町家店舗を集めてパターン化したものである。

以上のように広告表現の時代変遷を分析した。また、業種や地域によって看板・店構えが違い、それが都市ブランドであり、そのブランドは時代を超えて受け継がれていることが分かった。2013年度は「提案編」として、各エリアの屋外広告ガイドライン試案を作成する。

（中村伸之）

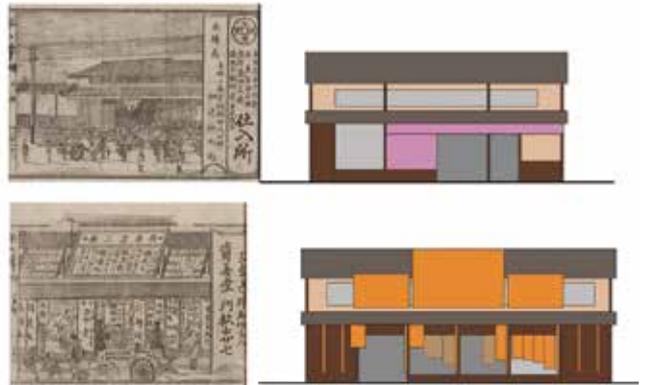


図8. 『都の魁』にみる明治の店構え（三条通の木綿商と薬屋）



図7. 『三条油小路町西側・東側町並絵巻』にみる江戸時代の店並み



図9. 現代の町家店舗を集めた町並みモデル（姉小路通）

プロジェクトメンバー

高橋芳文、中村伸之（総括）

宮沢 功、藤本英子（顧問）

内藤郁子、西 斗志夫、峰 朗展

協力：渡辺安人（アーキタイプ工房）

NPO ストリートデザイン研究機構

NPO 京都景観フォーラム

地震や津波による被害からの海辺集落の復興に関する調査

1. 復興の姿研究会について

復興の姿研究会は、関西から東北の被災地にどのような支援活動が可能かを議論するなかで、関西在住のメンバーを中心に結成され、2011年10月より活動を続け、既に、「海と漁業のまちの復興の姿」を2012年10月に公表している。

本プロジェクトは、その取り組みの一環であり、関西ブロック、九州ブロック、北海道ブロック合同で活動を行った。なお、JUDIプロジェクトのほか、日本都市計画学会「社会連携交流組織」の助成をうけた。

2. 目的

研究会では、街並みや慣れ親しんできた風景を失ってしまった被災地の20年後の空間像について検討してきたが、その中で、復興事業が完了した後の地域の営みや風景の再生にこそ目を向けるべきではないかという認識に至った。これまでも多くの海辺の集落が地震により被災し、さまざまな方法で復興に取り組んできているが、それら被災から一定期間が経過したものを対象として、事業完了後の様子も含めて横断的な調査、比較検討はあまり行われていない。

そこで、玄界島、淡路島、奥尻島で行われた震災復興事業を対象に、復興のプロセスや現在の様子について、特に風景の再生という観点から検討し、東北において進められている震災復興事業に対する知見、及び、近い将来に発生が予測されている南海・東南海地震への備えとなる知見を得ることを目的とした。

3. プロジェクトの実施概要

以下の現地調査、セミナー等を行った。

現地調査

- 2013年1月19日（土）玄界島
- 2013年4月13日（土）淡路島
- 2013年9月2、3日（月、火）奥尻島
- 2013年9月14日（土）玄界島
- 2013年10月31日（木）URヒアリング
- 2014年2月4日（火）淡路市ヒアリング調査

セミナー等

- 2013年5月25日（土）JUDI関西フォーラム
- 2013年9月15日（日）JUDI全国大会（福岡）
- 2013年10月18日（金）JUDI関西セミナー
- 2013年11月9日（土）日本都市計画学会大会（法政大）にて公開ワークショップ開催

4. 奥尻島の現状と課題

1993年に発生した北海道南西沖地震では、津波が奥尻島を襲い、死者172人、建物全壊437棟と大きな被害があった。2013年はそれから20年目の節目の年にあたる。大きな被害のあった青苗地区の防災集団移転事業の様子は多少なりとも知られているが、それ以外の小規模な集落の様子については一般に知られている情報が皆無であったため、奥尻町へのヒアリング調査、現地調査を行った。

- 全島に渡って、基本的にはその場所にきた津波の高さで防潮堤の建設が行われた。
- その結果、10m前後の防潮堤により島全体が囲まれ、風景が大きく変貌した。
- 復興のプロセスでは、港に共同の作業小屋を作ったことが大きく、ウニなどの出荷作業をするために住民が集まりはじめ、そこで少しずつ前向きな話が住民同士でされるようになっていった。
- 特に被害の大きかった3集落で嵩上げを含む復興事業が行われたが、集落と防潮堤の断面構成の違いから、海と集落の関係も様々であった。
- 青苗地区の防災集団移転事業による公営住宅や住宅地には空き家や空き地も見られた。
- 被災から20年が経過し、避難路や避難誘導灯のメンテナンスもままならない状況も見られた。

5. 淡路島の現状と課題

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、淡路島の漁村でも大きな被害があった。そのうち旧北淡町富島地区（現淡路市）では、全壊416棟、半壊255棟と、地

■奥尻島の様子



稲穂地区の防潮堤



初松前地区の集落裏の避難路



防集移転による住宅地



港の共同作業場

区のほとんどの建物が被害を受け、土地区画整理事業が実施されたが、住民の反対運動もあり事業の完了には14年を要した。

- 事業では、網道と呼ばれていた路地も含めた元の道を最大限活かすことが意図され、幅員6.0m以上の道路を適宜配置しつつ、4.5mの区画道路、2.0～4.0mの歩行者専用道も多用された。
- 被災を免れた住宅についても存置し、漁村独特の小規模宅地に応じた不整形な街区とした部分もあった。
- 所々でかつての漁村の路地の雰囲気を感じられたが、建物のデザインがマッチしておらず、漁村らしさを感じられない部分もあった。
- 事業の完了に非常に長い時間が必要であったが、漁業や商業といった地元での生業の復興が後手に回った結果、島外に出て行ってしまった住民も数多くいた。
- 密集事業が行われた他の集落では、地区内の大半の路地が残り、漁村の雰囲気が残っている一方で、被災した建物の空き地がそのままのところが多く、よい面も悪い面もそのまま引き継がれていた。

6. 玄界島の現状と課題

2005年に発生した福岡県西方沖地震では玄界島に被害が集中し、死者はなかったものの、全半壊153軒、一部損壊61軒と大きな被害があり、全島民の島外避難が行われた。復興プロセスで着目するべきはそのスピードで、発災から3年で復興事業が完了し、全員帰島を果たしている。それは発災2ヶ月後の島民総会で斜面地を一体整備することを合意するなど、島民の自主的な組織である『復興委員会』の役割が大きかった。

- 事業手法として小規模集落地区改良事業と土地区画整理事業を比較し、淡路島の富島地区などの事例視察を経て、復興委員会での議論を経て前者が選択された。
- 急斜面地に立地していることから長大な擁壁が発生したが、化粧間地ブロック、コンクリート擁壁など様々なものが見られる。
- 結果として、全住戸が港に向かって玄関を設ける、全戸南入りアクセスとなったが、プレファブ住宅になったことからかつての離島の漁村の風景は大きく変貌していた。
- 急峻な地形により、道路から屋根越しに俯瞰されることが多く、屋根の材料や色彩が平坦な市街地より重要な景観要素になっている。早期の復興のため、工業部材が有効だが、色彩や材料の調整が重要である。

7. ワークショップ等での議論

次のような意見が出され、議論された。

- 玄界島では、道路率は上がったが、離島であるため、元々自動車保有率は低く、幅員は4m程度でもよいのではないか。
- 奥尻島での復興の経験、例えば、生業の復興の重要性などを淡路島では効果的に活かせなかったが、玄界島では淡路島の復興の様子から復興事業のスピードを重視するきっかけとなった。
- 富島地区について、地震から5年後にようやく事業が動き始めたが、別のやり方をしていれば、この5年間をもう少し圧縮できた可能性もあり、そういった反省、知見を他の地域での復興に活かしていかなければならない。

■淡路島の様子



富島地区（土地区画整理事業）のまちなみ



育波地区（密集事業）のまちなみ

■玄界島の様子



島内のまちなみの様子

擁壁のまち



港を望む

お稲荷さんがそこかしこに

東日本大震災における自主復興の実態に関する調査

プロジェクトの目的

東日本大震災からの復興では大きな計画がクローズアップされることが多いが、現場ではそれぞれができる範囲で個別の復興を進めていると思われる。このことは、移転を余儀なくされる地域においても同様と想像されるが、その実態は不明である。公と私の取り組みが相互に機能することが、より早くよりよい復興には欠かせないだろうから、これらの把握は重要と考えられる。そこで、自主復興の実態の一端を見いだすことを目的として、ヒアリングや事例調査を通じて復興パターンやその方法を整理した。

関西ブロックと東北ブロックの連携プロジェクトである。

調査概要

・現地調査：3/25～26 他

復興庁気仙沼支局、宮城・福島震災復興支援局職員および国土交通省職員と意見交換。

名取、亘、塩竈、南三陸、気仙沼等の「復興商店街、仮設店舗、プレハブ商店街、復興市」の状況を視察。また、気仙沼ー南三陸（2011年11月の調査範囲の一部）の漁村集落の現状、震災直後にまったくの自主復興を進めた石巻市北上町白浜復興住宅を調査。

調査結果

1. 復興商店街のタイプ、意義と課題

<タイプ>

- ①市場の仮設復興
 - しおがま・みなと復興市場（塩竈市海岸通仮施設）
- ②仮設住宅地に隣接して設置
 - 復興仮設店舗緑ヶ丘、亘理ふるさと復興商店街
- ③被災地に設置
 - 伊里前幸福商店街（南三陸町歌津）、志津川復興名店街（愛称・南三陸さんさん商店街）、気仙沼鹿折（ししおり）復幸マルシェ
- ④被災地に設置（都心型）
 - 気仙沼復興商店街紫市場、復興屋台村気仙沼横丁
- ⑤一般市街地に設置
 - 復興仮設店舗閉上さいかい市場

<意義と課題>

- ①店舗が再開するだけで希望を感じる。
 - 仮設の商業施設をみると同じ思いを感じる。
 - 地元の人の交流の場でもあり、観光客が来る場でもある。

- 失われた町の活動が蘇ることを祈念する意味もあると思われる。

- ②仮設住宅隣接の仮設商業施設をみると、最低限の印象である。

- 将来の高台移転住宅地、災害公営住宅団地での購買問題はなかなか予断を許さない。

- ③観光客向けにしつらえられた仮設復興市場など、一定の効果を果たしている。

- 漁業の復興とも連動している。
- これがいつまで持続するかが課題。

- ③復興ツーリズム／来る者が途絶えないこと

- 人が来ることが被災地の元気の元。
- 被災地の復興から元気をもらう。

2. 自主復興の事例：

石巻市北上町白浜復興住宅のチャレンジ

<白浜復興住宅の概要>

敷地：宮城県石巻市北上町大字十三浜字下山15 - 2、56 - 1、57、64 - 16

敷地面積：4,989 m²／所有者有限会社熊谷産業

都市計画区域外及び準都市計画区域外・宅地

用途地域：指定なし、防火地域：指定なし

住宅概要：伝統工法による木造平屋または2階11棟

工事：株式会社芽ぐみ（町の地域振興を目的とするまちづくり会社） 同社の施工管理の下、数社の地元工務店が地元の大工職人を使って建設

管理運営：工学院大学が土地所有者から借地し、建物を建設。建物の所有は、工学院大学。大学は、建物を管理運営するNPOに無償貸与。NPOは、居住者に建物を転貸し、居住者から管理費を徴収して、建物の維持管理、土地の固定資産税納入等の必要な管理運営を行う。

管理費：2階建27,000円、平屋20,000円（月額）以内で運営可能な予定。当該費用の算定等については、日本土地建物株式会社のCSR協力を得ている。

建設資金：工学院大学125周年記念の募金事業による

設計：工学院大学建築学部、担当：関谷真一（結設計室代表、工学院大学客員研究員・前非常勤講師）、指導：谷口宗彦（工学院大学建築学部建築デザイン学科教授）

<評価のポイント>

- ①被災後1年で、民間の力だけで、復興公営住宅のようなものを構築。

- ②景観形成を意識していること。

- ③学生ボランティア活動の場として活用。

<成果をもたらしたポイント（試論）>

- ①地価や手間賃の高騰や人手不足が深刻になるまえに、工事を終えたこと。
- ②完全なる民間事業として生まれ、民間のプロフェッショナルが協働して住宅供給スキームを開発したこと。
- ③山古志村の公営住宅や防集の住宅モデルを参考にしたこと。

3. 災害危険区域の建築に関する制限内容の整理

<各自治体の災害危険区域の住宅に係る建築制限>

①原則として修繕による居住の継続の容認

- 増築の扱いは自治体によって異なる
- 防災集団移転促進事業及びがけ地近接等危険住宅移転事業を活用する場合は居住できない（宅地の買い上げ有り）

②新築制限の3通りの方法

地形や市街地の規模、想定される被害（浸水深さ）等、地域の実情に応じて使い分けされている

- ゾーニング型：建築できないゾーンを定めたもの
- 技術基準型：上記同様のゾーンを設けるが、一定の基準を満たせば建築を認めたもの
- 中間型：複数のゾーンを設定し、それぞれについて上記のどちらかを当てはめたもの

<個人による住宅再建考察>

①災害危険区域での建築制限が生み出す住まい方

- 条件によっては原位置での再建が認められており、将来、管理しきれない状況が発生する恐れがある。コントロール手法の開発が望まれる。
- 条例により制限内容を定めることができるが、市街地、漁村集落といった場所の特徴に応じた制限は行われていない。事前に検討できるのであれば、地区計画のようなきめ細かい条例も考えても良いのでは。
- 技術基準はこれまでにない住まい方を生み出す可能性がある。新たな住まい方の提案が望まれる。

②居住地の選択肢の確保

- ヒアリングによれば、場所によらない職業の被災者には、内陸の住宅地等へ早々に移転した方も多いという。また、補助事業が確定するまでの期間、様子見のような状態もあったという。地域の継続のためには事業の早期完了が望ましいので、一定の市場規模がある地域においては民間開発を復興事業として認可し、補助する仕組みがあってもよいのではないか。

4. 復興に携わる方へのヒアリング

次のような意見があった。

- 復興の財源は確保されているが、現場のマンパワーが不足しており、工事等の発注が進んでいない。
- 自治体によって復興のテンポは異なる。例えば、規模の小さい自治体の方が動きが軽い印象がある。
- 体力のある企業が早々に移転し、操業を再開するといった自力復興の事例はごく一部で、多くないと思われる。
- 一般的に補助制度は遡及適用されないため、法制度がある程度確定した段階で、アクションを起こすことが多いと思う。
- 一方で、サラリーマン等の場所に関わらない職業の方々は、移転し新たな生活をはじめるとも多いと思う。
- （RCと木造で耐用年数（払い下げまでの使用期間）が異なることについての話題に対して）災害公営住宅の構造は市町村が決めており、将来の払い下げの想定は不明。
- （仮設商店街が恒久的なものになるかどうかという話題で）中小企業庁が約250億円の資金援助を行っている。
- 高台移転では、最初に土木技術者が計画を策定したが、建築計画という視点からそれを見ると、不具合（北側斜面による日照の不足、段差処理が十分ではない等）が多いことに気がつく。
- 復興計画や事業の進捗を横並びに評価し、知見を共有する取組は十分ではない。
- 漁村集落の復興も動き出すが、一般市街地とは異なる復興モデル（造成計画だけでなく、建築のあり方や生活像）を考える必要があると感じている。

5. まとめ

自主復興そのものというよりも、それを支援する制度や取り組みを調査している。それは、復興が進まない中で、自主復興を調査することの困難さを事前の調査で確認したためであるが、最終的に復興を進めるのは地域の個人の意思決定の積み重ねであり、その表れとしての復興商店街、支えるための新たな事業スキームの開発、制度設計であると考えたためでもある。この調査で紹介した事例や類型化がこれからの復興まちづくり技術の向上に微力ながらも貢献することを切に願う。

<報告書は、JUDI ホームページにて公開中。

<http://www.judi.gr.jp/menu-3-4.html>

中部ブロックメンバーによる東日本大震災への復興計画提案づくり

中部ブロックは関西ブロックと連携して、東日本大震災復興プロジェクトとして福島県の飯舘村と南三陸の現状の状況を調査し、今後来る中部エリアの東海・東南海・南海地震に備え、沿岸の都市や原子力発電所周辺の地域が災害にあった場合、どう対応すべきかを考える事とした。

※調査の詳細は JUDI 本部 HP・アーカイブにて公開 (<http://www.judi.gr.jp/menu-3-4.html>)

1. 福島県飯舘村の現状と今後の復興について

■概要

福島県飯舘村は「日本で最も美しい村連合」に加盟、景観だけでなく農民の暮らしも評価された。スローで「まてい」(丁寧な)暮らし。3月11日東日本大震災。その後福島第一原発事故により、村民全体 6,000 人が避難生活に。現在も村に帰れない状態が継続している。

2013年6月20日、21日に小林さん、渡邊さんは福島市内で、菅野さんに現地(飯舘村)の実家でヒアリング。



小林さんは著書「福島、飯舘村 それでも世界は美しい」明石書店でこの飯舘村で起こった事を正確に書き記している。



■まとめ

復興に到る複層的なコミュニティの復旧について 仮設住宅は応急的なもの。2年以上も限界を超えて使われている。村に「戻る」「移転する」前段階を、まず計画する必要がある。耳を傾けること、そしてゆっくりと進めることである。

世代を超えてもいつかは故郷に戻ろうという長い時間のかかるプロジェクトがこの飯舘村のモデルになるかもしれない。政府予算で2~3年でという勝手な予算の都合での解決策では、この問題は解決しない。天明の飢饉の時は飯舘村の人口は3世帯しかなくなったという。しかし長い時間をかけて6,000人になった。村はそんな長い時間の中で動いている。世代を超えて離散した人々がコミュニティを継続させながら、50~100年後に戻るといふ気の長いプロジェクトそれは何だろうか。(作成：河崎)

2. 三陸海岸地域調査と復興の考え方

飯舘村調査とは別に、メンバーの柳田が独自に2011年5月に岩手県南部から宮城県の三陸海岸地域調査の被災地の調査を行っていた。その後、2013年7月に JUDI 中部のプロジェクトとして再調査を行い、被災地の状況、復興事業の進み方などを見てきた。

1回目の調査では岩手県釜石市、大槌町、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市、南三陸町、女川町、石巻市に行ったが、2回目の調査ではその中から大船渡市、陸前高田市の2市の市街地と漁村集落に絞って調査した。

復興については、都市的スケールでの新たな復興ストラクチャーが構想されなければならないと思える。その時に大きなヒントになるのが、津波被害がほとんど想定されない地域に半世紀前に構想され奇跡的に実現した坂出市の「人工土地」であるように思う。JUDIでも2011年に四国ブロック・関西ブロック共同で坂出市での都市

歩行者空間デザインの可能性を探る

—旭川市買物公園を中心に—

プロジェクトの目的

都心の歩行者専用道路については、沿道や地域の商業振興への貢献に比べ、都市環境デザインや歩行者空間の質といった点での評価は十分とはいえない。そこで、40周年を迎えた全国初の恒久的な歩行者専用道路である旭川買物公園を主な対象に、こうした観点から再評価し、歩行者専用道のこれからの展望することを目的とした。



関西、北海道ブロック、研修委員会の連携プロジェクト
協力：旭川市、東海大学名誉教授 大矢先生、東海大学旭川校、北海学園大学、北海道新聞

1. 取り組み概要

2012年11月3日(土) まちなか交流館会議スペース「HIROBA」

- セミナー1 買物公園の成り立ちと40年を学ぶ「買物公園誕生」上映

買物公園整備に関するレクチャー

建設当時の計画に関して 鳴海 邦碩 (JUDI 関西)

改修計画に関して 大矢 二郎 (東海大学名誉教授)

- フィールド調査

2012年11月4日(日) フィールド旭川7階 シニア大学

- 旭川の大学生による買物公園のこれからの考えるWS
- セミナー2 歩行者空間デザインの可能性を探る—旭川市買物公園を中心に
- 基調講演：街は生きている—旭川平和通買物公園の<昨日・今日・明日> 大矢 二郎 (東海大学名誉教授)
- ワークショップの成果発表 旭川の大学生
- フィールド調査を通じた買物公園の都市環境デザインの視点からの評価 参加した JUDI 会員全員による発表
- 討論とまとめ コーディネーター：鳴海 (JUDI 関西)



- 参加者：JUDI 会員 14 名、一般 4 名、大学生 7 名
- セミナーの様子は、北海道新聞で取り上げられた。

事後プログラム

- セミナーで出された提案や評価は提言書としてとりまとめ、旭川市に提案。

2. JUDI 会員の提案

プログラムに参加した JUDI 会員全員による発表タイトルは次のとおりとなった。

- 歩行空間のダイバーシティ (予測不能な彷徨へと)
- 買物×公園×・・・買物公園に見る次の手がかかり



- まちなかの賑わいの回復のために：「都市環境デザイン」への期待
- 『買物公園』空間の整理と高齢化社会に向けた改善提案



- そろえ・対比 (まちなみ意識のにじみ)
- 敷設空間の多様化・子供が楽しめ、感動する空間



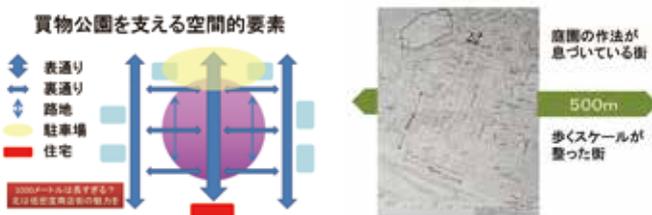
- みんなの買物公園 わたしの買物公園
- 旭川平和通買物公園・楽しい交流空間づくり



- 広場・通りの魅力を高める密度感
- 街区側からの魅力づけ
- 買物公園のフリンジづくり



- 500メートルを支える仕組み
- 買物公園から買物庭園へ～駐車場から買物公園の賑わいを考える



3. 大学生の提案（賑わいと空間デザインの2テーマ）

テーマごとにチームをつくりワークショップを行った。

●賑わいチーム



●空間デザインチーム



4. 謝辞

本プロジェクトの実施にあたり、東海大学名誉教授大矢先生には講演のみならず買物公園に関する多くの貴重な研究を披露していただいた。北海道新聞旭川支局の太田氏には現地のさまざまな調整をしていただいた。東海大学旭川校と北海学園大学からは都市環境デザインに意欲のある大学生に参加していただいた。そして旭川市には会場の提供等の多大な協力をいただいた。2日間のプログラムはこのような現地の多くの方々の支援によって進められた。協力して下さった方々にあらためて感謝したい。



北海道新聞 2012年11月5日に掲載された記事
 <提言書は、JUDI ホームページにて公開中。

<http://www.judi.gr.jp/menu-3-4.html> >

メンバーズポートフォリオとブロックパンフレット

1. メンバー

須田武憲、茂手木功、谷口雅彦、小早谷信之（事業委員） 酒本宏、長町志穂、斉藤浩治（代表幹事） 永山哲也（会員外）

2. 概要

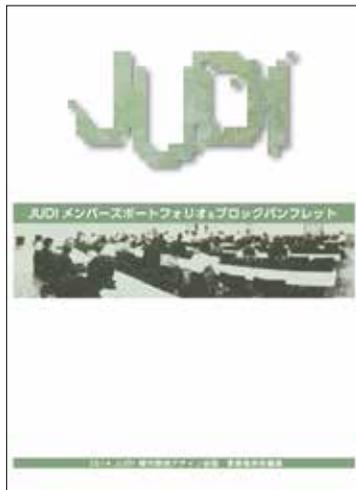
目的：JUDI 会員の実績と各ブロック活動の成果をカタチにすることで、会員間の交流の活性化を図るとともに、自治体や関係団体、大学等に示すことにより学生や新たな会員の獲得を目指す。

内容：メンバーズポートフォリオは希望する会員が原稿を作成、（指定フォーマット A5 版見開き 1 ページ）、ブロックパンフレットは各ブロックごとに原稿を作成（指定フォーマット A5 版見開き 2 ページ）、事務局が集約、編集、PDF 化を行う。本年度はレイアウトの決定と事業委員によるサンプル PDF 版の作成までを行った。

3. 検討経緯

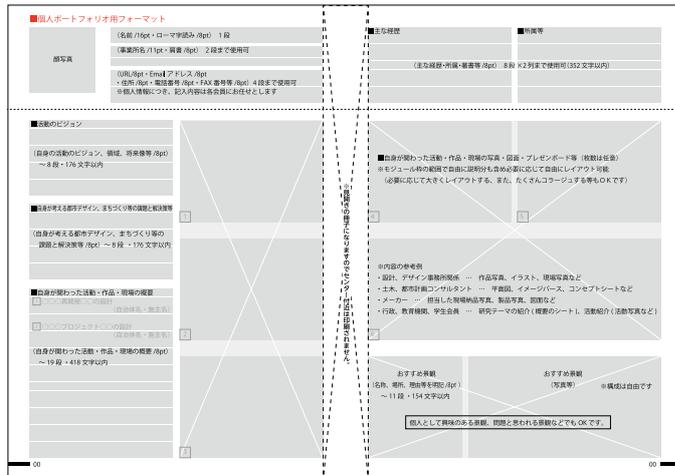
- 1) 13/1/25 プロジェクト承認
- 2) 13/2/02 第 1 回打合 制作の方針、内容、方法等の検討、レイアウト案作成開始
- 3) 13/4/12 第 2 回打合 1 次レイアウト案検討、表紙検討
- 4) 13/4/18 第 3 回打合 2 次レイアウト案検討
- 5) 13/5/17 第 4 回打合 最終レイアウト及び表紙決定。事業委員によるサンプルを作成依頼。
- 5) 13/6/17 第 5 回打合 最終案決定。PDF 版サンプル作成開始

4. 表紙案



5. フォーマット案

●個人用ポートフォリオ用フォーマット



●ブロックパンフレット用フォーマット



6. サンプル



須田武憲 Takenori Suda
株式会社 G K 設計 代表取締役社長 技術士（建設部門）

URL : <http://www.gk-design.co.jp/sekkei/>
Email : suda@gk-design.co.jp
〒161-003 4 東京都新宿区上落合 1-16-7
TEL 03-3360-8321 FAX 03-3360-8328

■主な経歴
1961(昭和36)年 生まれ
1988(昭和61)年 愛知県立芸術大学デザイン専攻卒
1988(昭和61)年 株式会社G K 設計入社
2006(平成18)年 同社取締役就任
2011(平成23)年 同社代表取締役社長

■所属等
都市環境デザイン会議正会員（事業委員）
土木学会正会員（デザイン賞選考委員）

■活動のビジョン

私は環境プロダクトといわれるモノや装置の置かれた状況を通して、機能性と快適性の向上はもとより、地域の持続可能性を担うような新たな価値の提供や、時間軸のながで形成される地域の美の創出に寄与していきたい。すなわち、カタチだけでなく配置と視点場、まちとの関わりなど、モノが作り出す場との関係性によって、「自然に美しくなるデザイン」を目指している。

■自身が考える都市デザイン、まちづくり等の課題と解決策等
少子高齢化や低成長時代を迎え、自動車主体の都市構造から、人間主体のまちづくりにシフトする必要がある。LRTやBRT、コミュニティサイクル、歩きやすい歩行空間デザインなど、公共交通施策をトータルに組み合わせ、静かなまち、歩いて暮らせるまちをテーマとした人間中心、共有、持続可能性のある都市デザインを目指す。

■自身が関わった活動・作品・現場の概要

- 1 新宿副都心地区サイン計画、設計
1990年(東京都)
- 2 沼津駅北口広場景観設計
2001年(地域公園)
2008年土木学会デザイン賞 優秀賞
- 3 首都高石川町出口ランプ景観検討業務
2005年(横浜市)
- 4 静かなまちづくり
(公共交通による都市デザイン)



■おすすめ景観

諏訪中央病院の庭（長野県茅野市）

花やハーブを誰でも摘み取り自由、ポランディア参加も自由、デザイン監修を受けながら植え込みも自由、入院患者や地域の人々が五感で楽しみや癒しを感じる事ができる庭。ほとんど初期投資無し、メンテ費用無しで成立しつづける空間、しかも人々が関わりながら常に美しく保たれていく。ただで遣り、ただで維持し、ただで楽しむのが新しい。



谷口雅彦 Masahiko Taniguchi
株式会社 都市環境研究所 計画グループ 企画・設計室長
執行役員／主任研究員／一級建築士

URL : <http://www.urdi.co.jp/>
Email: taniguchi@urdi.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷2-35-10
TEL 03-3814-1001 FAX 03-3818-2993

■主な経歴
1967(昭和42)年 生まれ
1993(平成5)年 熊本大学大学院工学研究科 修士
1993(平成5)年 株式会社都市環境研究所 入社
2008(平成20)年 主任研究員
2012(平成24)年 執行役員

■所属等
都市環境デザイン会議正会員（事業委員）
東京都建築士会正会員

■著書
「建築とまちなみ景観」共著、ぎょうせい、平成17年1月

■活動のビジョン

私は、景観・デザイン等に関する計画、景観ガイドライン、デザイン調整業務、地元のまちづくり、民間開発プロジェクト、まちと建築をつなぐ部分の計画・設計等の日常業務を通して、「都市の魅力ある外部空間づくり」をテーマに、日々取り組みんでいます。

■自身が考える都市デザイン、まちづくり等の課題と解決策等
私は、「ちよっと休もうよ」「話をしようよ」「気持ちいいね」「寄り道しない?」「こっちは通ろうよ」といった、人の快適な活動の場づくり、心地よい気持ちになる場づくりを提供していくことが都市デザインと考えています。
今、あらゆる価値観が変わってきている時期、まちづくりに関わっていることに責任を感じています。これといった解決策はありませんが、後の時代から、あの時代に取り組みを始めていて良かったなという企画・計画・設計をしたいと考えています。

■自身が関わった活動・作品・現場の概要

- 1 幕張ベイタウン道路景観施設整備設計
1995~97年（千葉県企業庁）
- 2 幕張ベイタウンSH-3事業地区
デザイン調整支援(計画設計調整者：土田旭)
2000~06年
(MIC2001グループ：代表企業野村不動産)
- 3 浜見平地区都市デザインガイドライン策定
2008年（茅ヶ崎市）
- 4 秋田県仙北市角館外町のまちづくり支援
2008~11年（角館まちづくり研究所）
- 5 練馬区景観計画策定業務
2011年（練馬区）
- 6 川崎市旧河原町小学校グラウンド附帯施設設計・監理
2012~13年（川崎市）



■おすすめ景観

学生時代に熊本城が見える場所からの写真を撮影するという課題がありました。まちを注意深く歩くと、至るところから熊本城が見えます。なるほど、この街の町割りは、意図的に熊本城が見えるように計画されているのだと。どの「まち」にも、大切なランドマークとなる建物や樹木や山々があると見えます。注意深く観察して、地域の身近な資源を発見し、それを大切にすることを実践していきたいと思っています。



研修委員会

1. 委員会構成

委員長：鳴海邦碩

委員：杉山朗子（副委員長）、鳥越けい子、岸井隆幸、大沢昌玄、堀口浩司、松本篤

2. 委員会事業の概要

22期は、関西ブロック、北海道ブロックの協力を得て、以下の事業を行った。研修委員会からは鳴海邦碩（関西ブロック）、松本篤（中部ブロック）が参加した。

- ①テーマ：わが国における歩行者空間整備の実績と評価 ～北海道旭川市買物公園を中心に
- ②趣旨：旭川の買物公園が開設40周年を迎えた本年、買物公園を中心して、日本の歩行者空間整備の評価を試みる
- ③報告：2012年11月3日、4日に現地で講演、現地調査、セミナー、WSを行い、関西、北海道ブロックや学生など約30名が参加した。報告書、提言書は管財ブロックにより12月にまとめられ、公開されている。
<http://www.gakugei-pub.jp/judi/>



3. 委員会打合せ

(1) 2013年5月23日／eメール会議

研修委員会内eメール会議にて2013年度(23期)の事業計画、および委員長交代を諮り承認。

委員長 鳴海邦碩委員→大沢昌玄委員

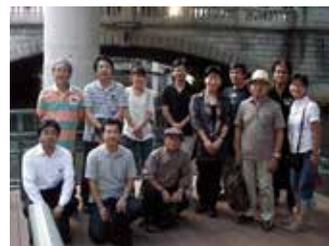
(2) 2013年6月24日／日本大学会議室

大沢昌玄委員、松本篤委員が(1)の内容、および総会、全国大会対応について打合せ。

4. 委員の活動

(1) 押しかけりレーセミナー復活13回（関東ブロック／鳥越けい子）

2012年9月8日、関東ブロック押しかけりレーセミナーとして、鳥越けい子委員企画の都市楽師イベントー川面のコンサートーを日本橋川にて開催した。



(2) JUDI 中部ブロック デザインセミナー - あいち・みえ・ぎふ 船運が繋ぐまち探訪 Part2～桑名、Part3～赤坂宿 - (中部ブロック／松本篤)

2012年11月23日、中部ブロック主催の桑名まち歩き、および2013年5月11日、中部ブロック+岐阜大学共催の赤坂宿まち歩きに参加、中部ブロックホームページにて報告した。

<http://judi-chubu.cityrepairnet-aichi.org>



<桑名>



<赤坂宿>

(3) 福島県飯舘村調査（中部ブロック／松本篤）

2013年6月21日、22日、中部ブロック2名と共に、原発事故後の福島飯舘村を調査し、地元3名からヒアリングを行った。内容については13期全国大会で、中部ブロック取りまとめで報告した。



広報委員会

JUDI NEWS から Facebook によるタイムリーな情報発信へ

1. 概要

第22期(2012年度)の広報委員会は、前期(第21期)から継続編集していた「JUDI NEWS」107号を2012年7月30日に発行した。



「設立準備ニュースレター」1号(990年12月5日発行、「設立準備ニュースレター」は計3号まで発行)、「JUDI News」1号(1991年7月20日発行)に始まった「JUDI NEWS」も広報委員会の委員の減少等により、107号を持って終止符を打つこととなった。

また、広報手段もWEBやSNSなどの手段へと重心を移すため、「広報委員会」から「ホームページ検討委員会」へとその活動を委ねた。

2. ホームページ検討委員会

「ホームページ検討委員会」は、JUDIのホームページの内容をリニューアルする目的で、代表委員会の諮問機関として暫定的に設置された(規約に則らない非公式委員会)。第1回委員会を2012年3月3日(土)に開催し、2012年4月20日(金)に第2回委員会が開催した。

今期は2012年10月27日(土)に第3回委員会をアイスポット大阪(大阪市)で開催し、関西ブロック幹事を含む8名が出席して以下の内容を議論した。

◎ ホームページについて

ホームページはJUDIの組織紹介、活動記録、出版記録等のアーカイブ的なものとし、最新の情報提供等はFacebook、メール等を活用する。

◎ Facebookの活用方法について

Facebookグループ(会員向)については、JUDI会員等(協力法人関係者を含む)に限定し、会員間の報提供、意見交換に限定する。

Facebookページ(一般向)の活用を活性化する。

◎ JUDIニュースについて(メール)

Facebook参加者が会員の30%程度(約120名)であるので、今後とも積極的な情報発信を行う。各ブ

ロックにも情報提供を働きかける。

◎ 他団体メーリングリストの活用

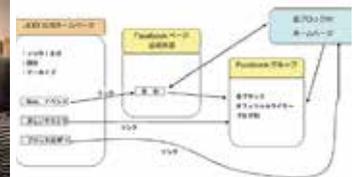
JUDI活動をPRする媒体として積極的に活用する。

◎ 機関紙「JUDI NEWS」について

これまでのように紙媒体の機関紙を年間数号発行することは難しいので、JUDIの年間活動をまとめた「アニュアルレポート」を毎年発行する。

◎ その他

JUDIの活動内容等を紹介する冊子、パンフレットを作成し、メーカーへの協力依頼、会員増強等に活用する。



3. ホームページ

2013年2月18日に全面的なリニューアルを行った。



4. フェイスブック

2011年12月9日にFacebookグループ「都市環境デザイン会議[会員向]」を開設。2012年3月3日にFacebookページ「都市環境デザイン会議」開設。2013年7月10日にFacebookグループ「JUDI復興未来会議」を開設。

◎ Facebook「都市環境デザイン会議[会員向]」

<https://www.facebook.com/groups/judi.members/>

◎ Facebookページ「都市環境デザイン会議」

www.facebook.com/judi.public

◎ Facebookグループ「JUDI復興未来会議」

<https://www.facebook.com/groups/judi.fukkou/>

事業委員会

1. 概要

2012年度は、「2012JUDI 都市環境デザインモニターメッセ」「ポストモニターメッセ」「メンバーズポートフォリオとブロック・パンフレット企画、サンプル作成」「パブリックデザイン・セミナーの検討」を行った。

2. 2012 JUDI 都市環境デザインモニターメッセ

テーマ：東日本大震災から学ぶ都市環境デザインのあり方 in 東京

実施日：2012年9月29日

場所：日本大学 理工学部1号館

内容：東日本大震災から学ぶ都市環境デザインのあり方をテーマに、基調講演、シンポジウムとモニターメッセを開催した。

◎基調講演『東日本大震災からの復興における

まちづくりと防潮堤整備の相克』

講演者：東北大学災害科学国際研究所
准教授 平野 勝也 氏

内容：効率を追求するだけではない、風土に根ざした防災のためのコンパクトシティのあり方や、都市計画や都市開発などの量的目標の時代から「ひらがなのまちづくり」に見られる誇りや愛着の感じられるような質的目標の時代への変換など、我々が目標とすべき多くの示唆に富んだ知見を発表していただいた。



◎シンポジウム

テーマ『復興まちづくりの展望と

都市環境デザインに求められるもの』

パネリスト：平野 勝也（東北大学准教授）
中野 恒明（芝浦工業大学教授）
角野 幸博（関西学院大学教授）

モデレーター：高見 公雄（法政大学教授）

内容：高見氏を含めた、パネリスト全員がそれぞれの立場で、被災地の復興計画に

関わっている現状についてコメントしたあと、討議が行われた。

都市デザインは後からの付け足しではなく、最初から考慮するものであり、必要以上の市街地拡大をしない、街路の均質化を回避することなどの空間構成的なことから、歴史ごと流失したとは考えず、流れたものは物だけであって、歴史はそこに残っていることや、もともと被災する前にあった中心市街地の課題などを併せて考えることの必要性などについて、多岐に渡って議論された。



◎モニターメッセ

テーマ『東日本大震災から学ぶ

都市環境デザインのあり方』

司会進行：伊藤 登／プランニングネットワーク
小早谷 伸之／標プランニング

プレゼンテーション

内容：本年度のプレゼンテーションは、第一部の景観まちづくり部門、第二部の防災・災害対応部門の二部構成とした。特に第二部は災害時の建物の倒壊に伴うアスベスト飛散を防止する商品など、テーマに沿いながらも独特の視点からの発表が行われた。

第一部：景観まちづくり部門

■ 株式会社住軽日軽エンジニアリング
『高規格道路、オーバブリッジの景観性を高める
アルミ合金製残存型枠』

発表者： 富岡 仁計／営業企画部デザインチーム
モニター： 八木 健一／八木造景研究室



第二部：防災・災害対応部門

■ 株式会社エコ・24
『災害時にも安全なアスベスト対策のご提案とその
技術応用』

発表者： 宮崎 恒一
モニター： 栗原 裕／ユー・プラネット



■ ヨシモトポール株式会社
『防災型景観ポールのまちづくり』
発表者： 小杉 達郎／都市景観グループ
モニター： 中井川 正道／FIT 環境デザイン研究所



■ 伊藤鉄工株式会社
『東京スカイツリーの IGS 製品 (Exp.J 対応型落下防
止フェンス)』
発表者： 梅村 昭夫／土木景観材部
モニター： 高見 公雄／法政大学



ポスターセッション

内容： きびしい社会経済情勢のなかであるにも拘わらず、8社の参加をいただき、盛況なイベントとすることができた。



3. ポストモニターメッセ

実施日： 2013年3月1日
場所： 日本大学 理工学部5号館
内容： 参加企業とモニターメッセ関連コアメンバーが集う報告会および個別相談会を実施した。



4. メンバーズポートフォリオと

ブロック・パンフレット企画

内容： 今期は企画からサンプル作成までを行った。(詳細は別途プロジェクト報告)

5. パブリックデザイン・セミナーの検討

内容： 2014年度開催予定のパブリックデザイン・セミナーの企画・開催準備を行った。

国際委員会

1. 2013 年度の活動

国際委員会では、本委員会事業の3つの柱である「JUDI 海外ツアー」、「JUDI 国際セミナー」、「JUDI 国際情報共有セミナー」のうち、「JUDI 海外ツアー」、「JUDI 国際セミナー」を2回行った。

2. 「JUDI 海外ツアー」

2012 年度の海外ツアーはチベットのラサに行くこととした。期間はコア・スケジュールが9月18日から9月23日。ラサでは、世界遺産であるポタラ宮をはじめとし、チベットの文化遺産を訪れ、またラサの中心市街地なども訪れた。

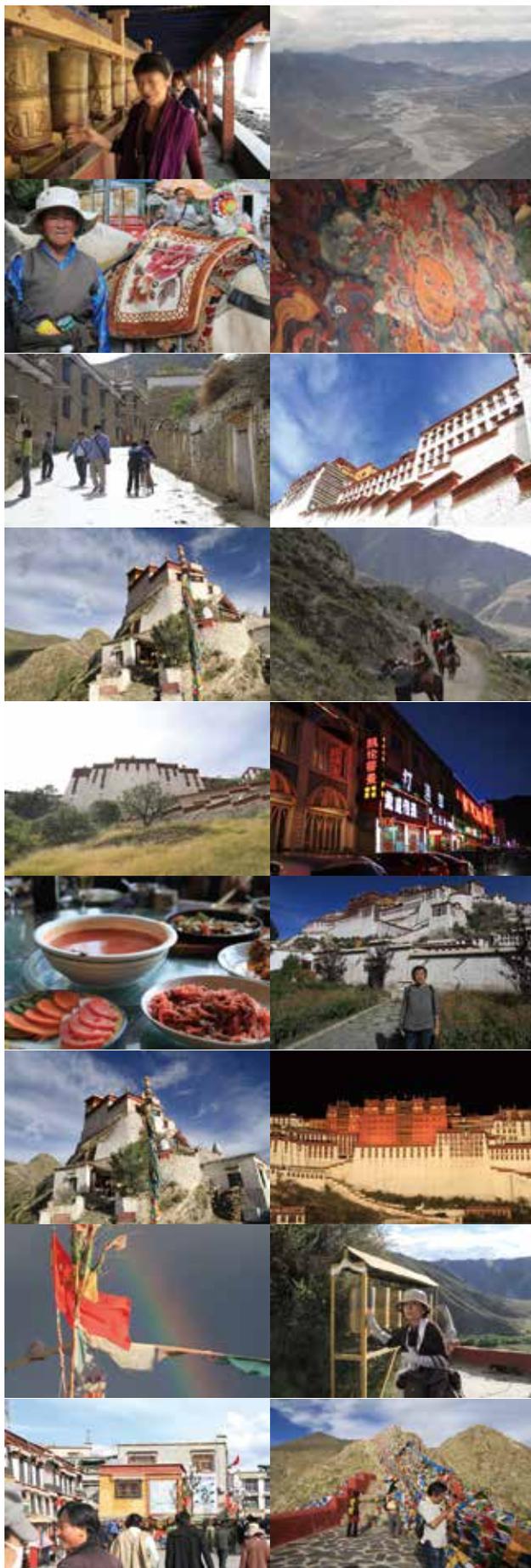
参加者は18名。そのうち、JUDI 会員が13名と盛況であった。参加者は、長町志穂、角野幸博、栗原裕、長沼眞智子、江川直樹、松久喜樹、斎藤彰良、龜谷清、鈴木道子、工藤勉、目黒朋美、任傑、杉山朗子、中村豊四郎、中村緑、井上洋司、稲田信之、服部圭郎であった(敬称略)。

具体的な行程は下記の通りである。

- 9月18日：各地から北京空港へ集合。その後、北京空港のそばのホテルに宿泊。日本のニュースでは反日デモの報道が多くされており、我々も多少、緊張はしていたが特に何の問題もなかった。
- 9月19日：早朝専用車にて空港へ着後国内線にてラサへ。コンガ空港着後現地ガイドがご案内に従って入山手続き後専用車にて沢当(約1時間半)へ。着後レストランへ昼食後高山順応の為休息。午後チベット最古の寺院『昌珠寺』、チベットで初めて建築された宮殿『雍布拉克』見学、夕食後ホテルへ。
- 9月20日：朝食後専用車にて沢当観光、桑耶寺、自然な高山風景のヤルンルン渓谷、と敏珠林寺など見学。昼食後専用車にてラサへ(約4時間)着後レストランへ夕食後ホテルへ
- 9月21日：朝食後専用車にてラサ市内観光、ポタラ宮。昼食後、大昭寺(チベットで最も聖なる寺院)、八角街(ラサの繁華街)散策、夕食後ホテルへ。
- 9月22日：朝食後専用車にてヤムドク湖日帰り観光。
- 9月23日：朝食後：専用車にてクンガ空港へ着後国内線にて北京へ到着後ご自身で国際線に乗換えて一路帰国の途へ。

今回のツアーは、都市デザインの勉強といった側面が弱く、むしろポタラ宮を中心とした世界遺産、チベットの文化遺産を訪れる観光的要素が強かったが、添乗者のフォローもしっかりとしており、有意義なツアーとなったのではないだろうか。

チベット・ツアー



3. 「JUDI 国際セミナー」

JUDI 国際セミナーとしては2回開催した。

① 「ママチャリが地球を救う」

講師: チェスター・リーブス (ヴァーモント大学名誉教授)

日時: 11月26日 (月) 18:30~20:30

場所: 明治学院大学3号館2102教室

講師は、1945年アメリカ・ニューヨーク生まれ。ヴァーモント大学歴史学科名誉教授、ニューメキシコ大学歴史保全地域学科非常勤講師。また、フルブライト奨学金を二度受け、東京大学、東京藝術大学の客員教授を務めたことがある。カルチュラル・ランドスケープ史、都市文化史の専門家である。

今回は、講師の書き下ろし新書である「世界が賞賛する日本の街の秘密」の内容を中心とした興味深い、話をしていた。豊富なスライドを用いた講演であった。参加者は30名ほど。

② 「Corporate Power or Cultural Authenticity?

Changing Urban Landscapes in the 21st Century」

講師: シャロン・ズーキン (ニューヨーク市立大学教授)

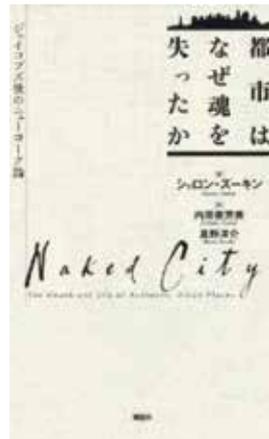
日時: 2013年1月8日 (火) 15:00~17:30

場所: 一橋大学国立西キャンパス本館1階

共催: 一橋大学社会学セミナー

講師はニューヨーク市立大学ブルックリン校および同大学院センター教授。長年ニューヨークに住み、観察している研究者であり、都市のジェントリフィケーションについての理論の第一人者である。

今回は講師の新著である『都市はなぜ魂を失ったか』の内容を中心として、都市のオーセンティシティについての話を聞くことができた。参加者は50名前後。おもに一橋大学の社会学関連の参加者が多かった。



「ママチャリが地球を救う」 チェスター・リーブス (Chester Liebs) 講演会



カルチュラル・ランドスケープ研究の第一人者であり、ヴァーモント大学歴史保全学科の創始者であるチェスター・リーブスが日本で出された本『世界が賞賛した日本の町の秘密』の出版記念講演会です。この貴重な機会を逃すことなく、是非ともご参加下さい。

チェスター・リーブス講演会 (通訳あり)

明治学院大学
(白金キャンパス2号館2102教室)

2012年11月26日 (月)

開場 1800 開演 18:30

主催: 都市環境デザイン会議国際委員会

チェスター・リーブス
(ヴァーモント大学名誉教授、元東京大学大学院客員教授)

ヴァーモント大学に歴史保存学科を発足させ、現在は名誉教授。建築空間の保存に関する学際的なプログラムを構築し、この分野の学問的位置づけ、方法論を確立させた。まさにパイオニア。バーモント州のランドスケープを保全する当時としては画期的な土地利用法ACT250 (1973)、そして同州の歴史保全法(1975)の制定に大きく貢献した。

歴史保全ナショナル・トラストの「国家栄誉賞」(1996)、「文化メリット・メダル」(1990)、バーモント保全トラストの「名誉賞」(1984)をはじめとして多くの賞を受けている。1995年に発表した「Main Street to Miracle Mile」は、20世紀におけるアメリカのストリート景観の変化を詳細に整理、編集したものであり、景観研究の必読本として考えられる。

調査研究のため何度も来日しており、日本の町の素晴らしさを検証した『世界が賞賛した日本の町の秘密』(洋泉社)を昨年末に出版している。

本講演に関するお問い合わせは、股部 圭郎 (hattori@eco.meiji.ac.jp) まで。

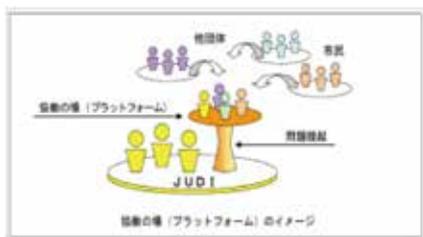
あり方検討会

■あり方検討会の概要

これまでの20年の蓄積を基盤として、JUDIは今後の時代に相応しい新たな社会的価値を創造する役割を果たす必要がある。本検討会は、その役割を再構築し新たな行動計画を立案することを目的とする。

初年度（2012年）の検討結果として、「もののデザインの上に豊かなコミュニケーションが開く「関わりをデザイン」すること、それが我々JUDIのこれからの役割であり、20周年を期に提唱した「しあわせな風景」の具現化につながるものである」ことを提案した。

また、活動領域拡大の方法として、組織を超えた協働の場（プラットフォーム）の構築を提案した。これは都市プランナーやデザイナー等の専門家の集合体を基盤とし、さらに多様な分野（エネルギー、医療、福祉、等）から多くの専門家が集うことが可能な協働の場（プラットフォーム）を提供するものである。



2年目となる今期（2013年）は、以下に示す計4回の検討会を実施した。

■第4回検討会（東京）

1. 検討会開催

- 開催日時：2012年6月17日（日）
13:30～16:30
- 開催場所：プランニングネットワーク会議室

■第5回検討会（富山）

1. 検討会開催

- 開催日時：2013年2月3日（日）
10:30～15:00
- 開催場所：日本海コンサルタント会議室
- 出席者：齊藤、栗原、酒本、作山、長濱、堀口、松山、河崎、谷、埴、尾辻（Skype参加）

2. 検討の内容

- ①総括的な検討（前期成果の再確認、フリー討議）
- 外部への情報発信を強化。現在のFacebook登録者130人程度であり、これをまず拡大する。
 - 改善の具体的な行動として、既に事務局移転を実現し、HPの更新に着手した。
 - 今後の改善は、重点的に実施すべき具体策を決めて実施する。

- JUDIを外部に説明するもの（趣旨）が必要。
- 多少の会員減少は受け入れるべき。
- 持続的運営のためにも学生会員を増やす。そのためには大学と連携する仕組みが必要。
- 会員数の維持は何のためか？活動費の確保が理由ならば、まず固定費を減らすことが大事。
- 北陸ブロックが活発な背景：地元密着型活動である。（ブロック活動が元気）他団体と会員が重複しているため連絡網や人的ネットワークが充実。ブロック事務局の対応が密である。等
- JUDI会員のメリットが見えない。もっと外部から人を呼ぶ。プロジェクトを活用する。
- パブリックデザインが社会的に注目されていない。メンバーの活動をもっと外部にアピール。
- JUDIの存在を示す意味でも「人材のポートフォリオ」が必要。地域ごとの活動成果集なども必要。
- 復興の姿研究会の発表とJUDI全国大会を近日で開催すれば相乗効果が出せる。
- 自治体職員を会員にして、デジタル化した情報の提供や共有を進める。
- 関西では学芸出版社の活動傾向が、アーバンデザインからライフスタイルへ変化している。

②個別テーマの検討

【活動（プロジェクト、委員会）】

- プロジェクトは対外的なアピールであるとともに、ブロック連携を強化するツールでもある。
- 他団体との連携を深めるプラットフォームとしての活用に取り組む。
- 広報や国際などは委員会というよりは代表幹事の役割として率先して活動すべきである。

【運営（総会、代表幹事会）】

- 総会の2極化（定例総会を簡素化（30人規模）、全国大会の充実（100人規模）を進める。
- 代表幹事の内部の役割を明確にする。外部に対しては代表理事1名を選出する。
- 経費削減のほか、積極的な情報発信に努める。

【組織形態（法人化、資金調達）】

- 外部からの資金がないため法人化のメリットが無い。→当面は法人化の必要はない。



- 外部の補助金や助成金は積極的に活用する。
- 社会的基盤は「学術団体」で満足している。

■第6回検討会（東京）

1. 検討会開催

- 開催日時：2013年4月20日（土）
10：00～13：00
- 開催場所：プランニングネットワーク会議室
- 出席者：斉藤、栗原、酒本、中野、稲田、玉森、松山、河崎、尾辻、長町、伊藤、中村

2. 検討項目

- 前回までの振り返り（主な意見の確認）
- JUDIの将来像（10年後のありたい姿）を考える
- 目的（ミッション）と未来像（ビジョン）を整理する

3. 検討内容

①検討の全体像と検討手順

- 構築したい項目（ミッション、ビジョン、スタンダード）の全体像を示し、各項目ごとに文章を作成する。
- 検討手順は、発想しやすい「ビジョン」からスタートした。その後、「10年後のありたい姿」を自由に発想し、その結果を2つの項目に分類した。

②ミッションの整理

- 表現すべきことは「使命、目的、社会に向けた約束」である。（JUDIの存在意義）これを3つの項目（まちづくり、ひとづくり、ネットワークづくり）で発想した。ミッションの叩き台を下記に示す。

1. 私たちは、住む人が誇りと愛着を持って住み続けられる「元気で魅力あるまち」を創るために活動する。
2. 私たちは、まちづくりに関心を持つ人たちと協働し、ともに意識を高め合い、ともに新しい価値を創り出し、それを未来へ継承する。
3. 私たちは、多様な人たちがつながる場（プラットフォーム）を提供し、国内外の情報を共有する知恵のネットワークを構築する。



■第7回検討会（大阪）

1. 検討会開催

- 開催日時：2013年5月25日（土）
10：00～12：00

- 開催場所：アルパック会議室
- 出席者：斉藤、栗原、酒本、中野、稲田、松山、尾辻

2. 検討項目

- 前回までの内容確認
- 「ミッション」の検討
- 「ビジョン」の検討

3. 検討内容

①ミッションの表現に対する意見

- ミッションは「最重要の使命」を簡潔に表現する。
- 住み続ける→暮らし続ける（生活の多様さ）
- ハードを創るには専門家が必要。ソフトは手段。
- コミュニティビジネスだけでは不十分。
- 都市環境にこだわる。（帰結する場所が大事）
- 役割は、都市が成り立つ状況をつくること。
- 都市空間を発展させるイメージ。空間の質を高めるための行動。

【ミッションの結論】

- 誇りと愛着を持って暮らし続けられる環境の質を高めるために行動する。
- 補足事項： 会の名称の意味を整理して付記する。（都市環境とは、デザインとは、会議とは、）

②ビジョンの表現に対する意見

- 多様な価値観を持つ人の集まりであり、議論の場であることを伝える。
- 色んな領域をつなぎ、知恵を束ねる役割である。
- 固定的なイメージを持たれない表現にしたい。
- 具体的な都市像には触れない。（時代によって変化するものである。）
- 担い手の言葉が必要。（次世代に継承すること。）
- ネットワークできるアライアンス（同盟）である。
- 使う人の思いを大事にする。
- JUDIが考える価値観を常に社会に発信することが重要である。

③都市環境デザイン会議の意味

上記と合わせて組織名の意味を再定義した。

- 「都市環境」とは：
生活に関わる全ての空間や仕組みのことである。
- 「デザイン」とは：
「都市環境」を構成するハード、ソフトの関係を適正に構築し、その質を持続するために維持・更新することである。
- 「会議」とは：
多様な価値観の人が分野を超えて集まり、協働する場のことである。

あとがき

2012年度のアニュアルレポートをお届けする。今の時代、わざわざ印刷物にしなくても、WEB上で公開したらいいじゃないかという会員もおられるに違いない。冊子なんて本棚の肥しになるか、机の上に積まれた資料の山にうずもれるだけだと。だが、こうやって冊子にして初めて見えてくることがある。ぱらぱらとページをめくることで、1年間の活動を大づかみにできる。過去をちょっと振り返ることで、未来の仕事のヒントを見つけられる。行間を深読みすることも自由である。小さな写真に思わぬ刺激を受ける。詳しいことを知りたければ、ホームページを見たり、会員に直接問い合わせてたりすれば良い。今までのレポートを通覧すれば、都市環境デザインの大きなうねりを実感することもできる。

JUDIは、都市環境デザインを生業とするプロの集まりである。仲間やライバルの仕事を冊子で垣間見ることによって刺激が生まれる。先輩や後輩に、またこの業界をめざす学生たちに、ほんの少しの自慢話ができるかもしれない。打ち合わせの時にちらりと冊子を見せることで、クライアントからの信頼を強めたり新しい業務が生まれたりするかもしれない。

効果的な情報発信を行うには、それぞれの情報メディアの特性を理解し、それらを組み合わせることが必要である。クロスメディア戦略の一環として、この冊子をコミュニケーションを深めるためのツールとして使っていただきたい。会員相互そして会員とクライアント、会員と社会とのコミュニケーションツールとして。

委員長：角野 幸博

コミュニケーション委員会

- 角野 幸博 / 関西学院大学 (委員長)
- 伊藤 登 / プランニングネットワーク
- 栗原 裕 / ユー・プラネット
- 斎藤 浩治 / Mind-J
- 酒本 宏 / KITABA
- 長町 志穂 / LEM 空間工房
- 中村 伸之 / ランドデザイン
- 堀口 浩司 / 地域計画建築研究所
- 飯田 とわ / TowaG・Works

JUDI 都市環境デザイン会議・アニュアルレポート2012

2014年10月発行

発行 都市環境デザイン会議・コミュニケーション委員会
D T P (株)アーバンプランニングネットワーク
印刷・製本 (株)プリントパック

都市環境デザイン会議

コミュニケーション委員会

東京都北区田端新町 3-14-6 ノザキ G ビル

〒 114-0012

TEL : 03-6240-8827

E-mail : postmaster@judi.gr.jp

URL : www.judi.gr.jp